2022年度

教育課程

学校法人 医療創生大学
岡山・建部医療福祉専門学校

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【 教育課程 目次 】

Ⅰ 教育理念 ----------

Ⅱ 教育目的・目標 ----------
1．教育目的 ----------
2．教育目標 ----------
3．看護の主要概念 ----------
4．学年別目標 ----------

Ⅲ 学科進度表 ----------

Ⅳ 教育課程概要 ----------
1．教育課程とは ----------
2．教育課程の構成 ----------

Ⅴ 教育課程シラバス（臨地実習を除く） ---------- ～

【 Ⅴ 教育課程 シラバス　目 次 】

１．基礎分野

生命倫理学 ----------

死生学 ----------

２．専門基礎分野

リハビリテーション論 ----------

総合医療論 ----------

看護関連法令 ----------

公衆衛生学 ----------

3．専門分野Ⅰ

基礎看護学援助論演習 ----------

４．専門分野Ⅱ

成人看護学援助論Ⅰ（生活行動に障害のある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅱ（周手術期にある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅲ（緩和ケアを必要とする患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅳ（生命の危機状態にある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅴ（生涯にわたり健康コントロールを必要とする患者の看護） ----------

老年看護学援助論Ⅰ（老年期の日常生活援助） ----------

老年看護学援助論Ⅱ（老年期の健康障害時の看護） ----------

老年看護学援助論Ⅲ（老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)） ----------

小児看護学援助論Ⅰ（小児の療養環境と看護） ----------

小児看護学援助論Ⅱ（小児の主な疾患と看護） ----------

小児看護学援助論Ⅲ（疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）） ----------

母性 看護学概論（看護の対象と目的） ----------

母性看護学援助論Ⅰ（妊産褥婦・新生児の生理機能） ----------

母性看護学援助論Ⅱ（妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護） ----------

母性看護学援助論Ⅲ（妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程)） ----------

精神看護学援助論Ⅰ（精神疾患の理解と治療） ----------

精神看護学援助論Ⅱ（精神看護の実際とその倫理） ----------

精神看護学援助論Ⅲ（精神障害のある患者の援助技術（看護過程他）） ----------

５．統合分野

在宅看護概論（看護の対象と目的）　----------
在宅看護援助論Ⅰ（在宅療養者に関連する制度と展開）　----------
在宅看護援助論Ⅱ（在宅における日常生活援助技術と援助）　----------
在宅看護援助論Ⅲ（在宅援助技術（看護過程））　----------
医療安全　----------
看護管理　----------
災害・国際看護学　----------
看護研究　----------
統合看護演習　----------

【 教育課程 目次 】

Ⅰ 教育理念 ----------

Ⅱ 教育目的・目標 ----------
1．教育目的 ----------
2．教育目標 ----------
3．看護の主要概念 ----------
4．学年別目標 ----------

Ⅲ 学科進度表 ----------

Ⅳ 教育課程概要 ----------
1．教育課程とは ----------
2．教育課程の構成 ----------

Ⅴ 教育課程シラバス（臨地実習を除く） ---------- ～

【 Ⅴ 教育課程 シラバス　目 次 】

１．基礎分野

生命倫理学 ----------

死生学 ----------

２．専門基礎分野

リハビリテーション論 ----------

総合医療論 ----------

看護関連法令 ----------

公衆衛生学 ----------

3．専門分野Ⅰ

基礎看護学援助論演習 ----------

４．専門分野Ⅱ

成人看護学援助論Ⅰ（生活行動に障害のある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅱ（周手術期にある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅲ（緩和ケアを必要とする患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅳ（生命の危機状態にある患者の看護） ----------

成人看護学援助論Ⅴ（生涯にわたり健康コントロールを必要とする患者の看護）----------

老年看護学援助論Ⅰ（老年期の日常生活援助） ----------

老年看護学援助論Ⅱ（老年期の健康障害時の看護） ----------

老年看護学援助論Ⅲ（老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)） ----------

小児看護学援助論Ⅰ（小児の療養環境と看護） ----------

小児看護学援助論Ⅱ（小児の主な疾患と看護） ----------

小児看護学援助論Ⅲ（疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）） ----------

母性 看護学概論（看護の対象と目的） ----------

母性看護学援助論Ⅰ（妊産褥婦・新生児の生理機能） ----------

母性看護学援助論Ⅱ（妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護） ----------

母性看護学援助論Ⅲ（妊産褥婦・新生児の援助技術(看護過程)） ----------

精神看護学援助論Ⅰ（精神疾患の理解と治療） ----------

精神看護学援助論Ⅱ（精神看護の実際とその倫理） ----------

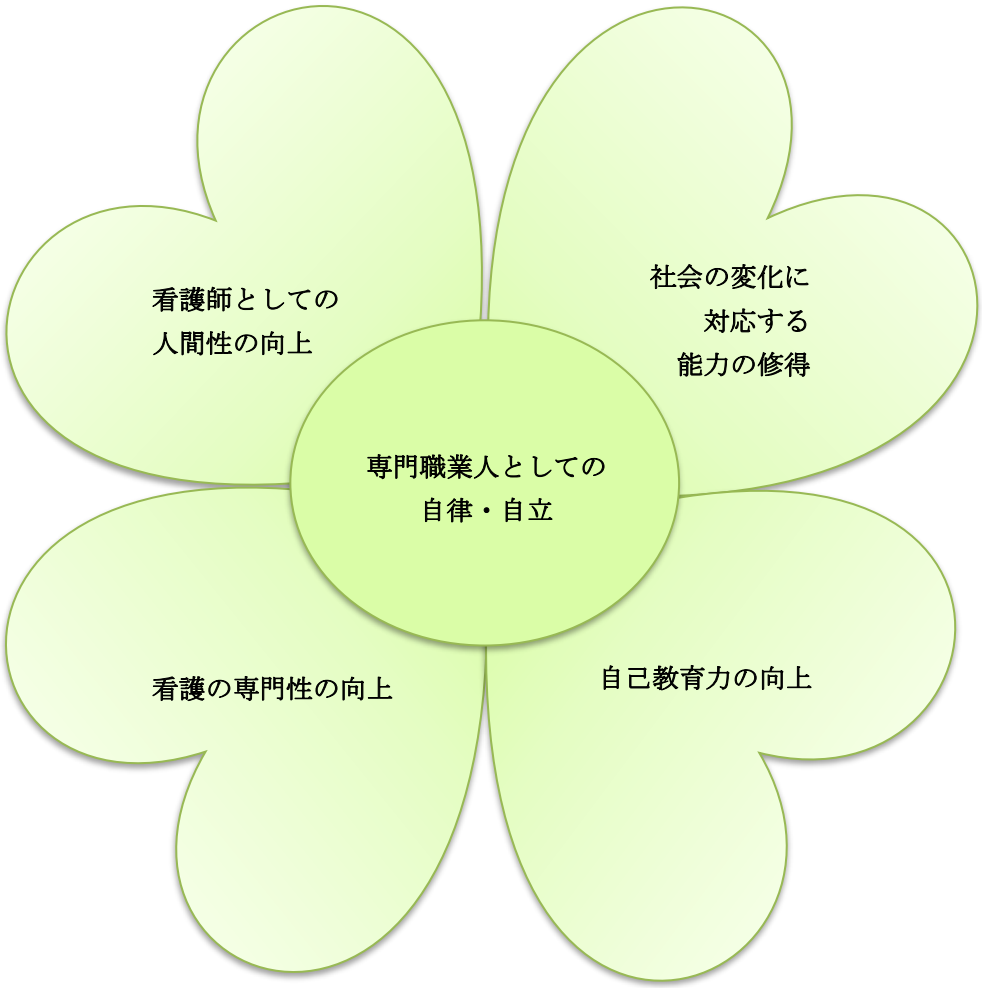
精神看護学援助論Ⅲ（精神障害のある患者の援助技術（看護過程他）） ----------

５．統合分野

在宅看護概論（看護の対象と目的）　----------
在宅看護援助論Ⅰ（在宅療養者に関連する制度と展開）　----------
在宅看護援助論Ⅱ（在宅における日常生活援助技術と援助）　----------
在宅看護援助論Ⅲ（在宅援助技術（看護過程））　----------
医療安全　----------
看護管理　----------
災害・国際看護学　----------
看護研究　----------
統合看護演習　----------

Ⅰ　教育理念

葵会グループの「“治す”と“防ぐ”を高いレベルで両立し、健康な人生をトータルにケアしていく医療をめざす」の理念のもとに、人間の尊厳と権利を守り、あらゆる健康レベルにある人々に対して、真摯な態度で看護を提供できる人材を育成する。



Ⅱ　教育目的・目標

1. 教育目的

看護に必要な知識・技術・態度を修得し、豊かな感性と自己教育力を養い、保健医療福祉の向上と国際社会および地域社会で貢献できる有能な看護師を育成する。

2. 教育目標

1）生命の尊厳と人権・人格を尊重する倫理観を有し、思いやりのある自立性の高い人間を育成する。
2）人間を取り巻く環境の変化に対応しながら、看護の対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつ統合された存在として理解する力を養う。
3）看護の視座に立ち、人間の健康問題に対する判断力と実践力を養う。
4）看護職としての役割と責任を認識し、保健医療福祉チームにおいて協働・連携できる能力を養う。
5）専門職業人として生涯にわたって看護を探求し、自己教育力を養う。

3. 看護の主要概念

自己教育力と看護実践能力を備えた看護師の育成

人間

① 人間は、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもった統合的存在である。
② 人間は、成長発達する存在である。
③ 人間は、基本的ニードをもつ存在である。
④ 人間は、環境と相互作用し、環境の中で生活する。
⑤ 人間は、価値観・自律性・独自性を持つ存在である。
⑥ 人間は、受胎から死に至ってもなお永遠に尊厳をもつ存在である。

環境

① 環境には、外的環境・内的環境があり、人間の生活に相互に影響しあう。
② 外的環境には自然環境・社会環境があり、これらは相互に影響しあう。
③ 内的環境とは、生体の内部環境である。
④ 生体の内部環境は相互に影響しあい、人間の生命現象に深く関与する。
⑤ 外的環境は、内的環境の恒常性の維持に関与する。
⑥ 環境は時間と共に変化し、環境と人間の相互作用は環境の変化に深く関与する。

健康

① 健康とは、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに調和がとれた状態である。
② 健康は、人間が生きていくうえでの基本的人権であり、社会システムの中で保障されるべきである。
③ 健康の状態は、人間と環境の相互作用に影響する。
④ 健康には、最良の状態から死までの連続的なレベルの変化があり、たえず流動する。
⑤ 健康の水準は一般的・抽象的なものではなく、個別的なものである。
⑥ 病気という状態は、環境に対し生体の恒常性を維持できないときに出現する。

看護

① 看護の対象は、健康を保つために環境との相互作用を重ねている人間である。
② 看護の目標は健康への到達・保持・回復・疾病の予防、あるいは死に臨む人間の安寧に向けて、個人ならびに集団を援助することである。
③ 看護とは、看護実践による目標達成に向けた、看護師と対象との相互作用の過程である。
④ 看護は生命の尊厳を重んじて、人間の基本的ニードにかかわる潜在的問題・顕在的問題に関与する。
⑤ 看護は、対象の健康上の問題を明らかにし、その問題を解決するために意図的・系統的に働きかけることである。
⑥ 看護師は、専門職として独自の機能を有し、保健・医療・福祉チームの中で他職種と協働する。

教育

① 教育は、個人の潜在能力を最大限に発揮できるよう支援することであり、教えるものと学修者との相互関係の中で、ともに学び成長することである。
② 教育は、学修者の可能性を引き出し、その可能性を学修者自身が主体的に伸ばしていけるように支援することである。
③ 教育とは、知識・技術・態度を育む意図的な働きかけである。
④ 問題解決能力を身につけることにより、自己教育力を育む。

4. 学年別目標

1 年次

1)他者に関心をもち、積極的にコミュニケーションがとれる。
2)健康の概念および看護の概念が理解でき、看護に必要な基本的知識が理解できる。
3)主体的な学習習慣を確立できる。
4)教科外活動・集団生活を通して、協調性・自立性・人間性を養う。

2 年次

1)自己を理解するとともに、他者に対する配慮、気配りができる。
2)対象の顕在的・潜在的健康問題を診断し、健康課題に応じた看護過程の展開ができる。
3)基礎看護技術を対象の状態・状況合わせて安全・安楽に実施できる。
4)問題意識をもって積極的に課題に取り組むことができる。
5)看護を学ぶ者として責任ある行動がとれる。

3 年次

1)習得した看護技術を対象者の基本的ニーズ充足のために活用できる。
2)個人の尊重を基盤に人間関係を築き、維持・発展していくことができる。
3)対象者のライフサイクルや、健康レベルに応じた看護が実践できる。
4)対象者の個別性に応じた看護過程が展開できる。
5)保健・医療・福祉チームにおける他職種との連携・調整・協働の必要性を認識し、看護の役割と責任が理解できる。
6)理論と実践の統合をはかり、自己の看護観を確立できる。
7)自分自身の行動に対する評価が適切に行え、自己の課題を明確にし、主体的行動ができる。

卒業時

1. 豊かな人間性を備え、思いやりをもって行動できる。
   1)多様な価値観をもつ他者に関心をもち、積極的に関わろうとする姿勢がある。
   2)お互いに相手を大切にし、協力し助け合う姿勢がもてる。
   3)人間を尊重し、すべての人と良好な人間関係を築くことができる。
2. 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。
   1)自己及び他者のあらゆる生命を尊ぶ姿勢がもてる。
   2)看護師として生命の尊厳を守るため、生命の安全を第一とした選択ができる。
   3)看護師として対象の人権を考えた倫理的行動がとれる。
3. 地域社会や他職種に関心をもち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。
   1)看護専門職として地域活動に積極的に参加し、社会的活動ができる。
   2)国際社会や保健・医療・福祉の動向に関心をもち、広い視野で物事を見据えた行動ができる。
4. 自律して看護実践できる。
   1)問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。
   2)自分の行動を適切に評価し、改善するために誠実に行動できる。
   3)変化する社会に対応するために自己研鑽する姿勢がもてる。

Ⅲ　学科進度表

教育課程		授業科目	単位数	時間数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	15	15					
		統計学	1	30		30				
		情報科学	1	30		30				
		生命倫理学	1	30				30		
		教育学	1	15		15				
		医療英語Ⅰ	1	30	30					
		医療英語Ⅱ	1	30		30				
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15		15				
		人間関係論	1	30		30				
		論理学	1	30		30				
		心理学	1	30	30					
		死生学	1	30						30
		保健体育	1	30	30					
	基礎分野　小計		13	345	105	180	0	30	0	30
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ　人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ　血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整	1	30	30					
		解剖生理学Ⅲ　体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み	1	30	30					
		解剖生理学Ⅳ　神経系・感覚器・体表から見た人体構造	1	30		30				
		生化学	1	15	15					
		栄養学	1	15	15					
		薬理学	1	30		30				
		病理学	1	30		30				
		微生物学	1	30	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ　概論・皮膚・免疫	1	30	30					
		病態生理学Ⅱ　体液・血液	1	30		30				
		病態生理学Ⅲ　循環・呼吸	1	30		30				
		病態生理学Ⅳ　消化器・腎・泌尿器	1	30		30				
		病態生理学Ⅴ　内分泌・代謝・生殖器	1	30		30				
		病態生理学Ⅵ　脳・神経・筋・感覚器	1	30		30				
	健康支援と社会保障制度	リハビリテーション論	1	30			30			
		総合医療論	1	15			15			
		医療経済論	1	15		15				
		看護関連法令	1	15				15		
		社会保障	1	15		15				
		公衆衛生学	1	30				30		
	専門基礎分野　小計		21	540	180	270	45	45	0	0
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		看護理論	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅰ　対人関係成立の技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅱ　療養環境に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅲ　安楽・活動と休息に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅳ　清潔・栄養・排泄に関する技術	1	30	30					
		基礎看護学援助論Ⅴ　観察技術（フィジカルアセスメントに関する技術）	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅵ　検査・与薬に関する技術	1	30		30				
		基礎看護学援助論Ⅶ　看護過程	1	30		30				
		基礎看護学援助論演習	1	30			30			
		専門分野Ⅰ学内　　小計	10	300	150	120	30	0	0	0
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90				90		
		専門分野Ⅰ臨地実習　小計	3	135	45	0	0	90	0	0
	専門分野Ⅰ　小計		13	435	195	120	30	90	0	0
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論　　看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論Ⅰ　生活行動に障害のある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅱ　周手術期にある患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ　緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅳ　生命の危機的状態にある患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅴ　生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護	1	30			30			
		小計	6	180	0	30	90	60	0	0
	老年看護学	老年看護学概論　　看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論Ⅰ　老年期の日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅱ　老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論Ⅲ　老年期の健康障害時の援助技術（看護過程）	1	15				15		
		小計	4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論　　看護の対象と目的	1	30		30				
		小児看護学援助論Ⅰ　小児の療養環境と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅱ　小児の主な疾患と看護	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅲ　疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）	1	15				15		
		小計	4	105	0	30	60	15	0	0
	母性看護学	母性看護学概論　　看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅰ　妊産褥婦・新生児の生理機能	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅱ　妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30			30			
		母性看護学援助論Ⅲ　妊産褥婦・新生児の援助技術（看護過程）	1	15				15		
		小計	4	105	0	0	90	15	0	0
	精神看護学	精神看護学概論　　看護の対象と目的	1	15		15				
		精神看護学援助論Ⅰ　精神疾患の理解と治療	1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅱ　精神看護の実際とその倫理	1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅲ　精神障害のある患者の援助技術（看護過程他）	1	15				15		
		小計	4	90	0	15	60	15	0	0
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90					90	
		成人看護学実習Ⅲ	2	90					90	
		老年看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90				90		
		小児看護学実習（保育園実習30時間含む）	2	90					90	
		母性看護学実習	2	90					90	
		精神看護学実習	2	90					90	
		専門分野Ⅱ臨地実習小計	16	720	0	0	0	270	450	0
	専門分野Ⅱ　小計		38	1305	0	90	360	390	450	0
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論　　看護の対象と目的	1	30			30			
		在宅看護援助論Ⅰ　　在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15			
		在宅看護援助論Ⅱ　　在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30		
		在宅看護援助論Ⅲ　　在宅援助技術（看護過程）	1	15				15		
		小計	4	90	0	0	45	45	0	0
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30				30		
		看護管理	1	30					30	
		災害・国際看護学	1	30					30	
		看護研究	1	30				30		
		統合看護演習	1	30				30		
		小計	5	150	0	0	0	90	60	0
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90						90
		統合実習	2	90						90
		統合分野　臨地実習　小計	4	180	0	0	0	0	0	180
	統合分野　小計		13	420	0	0	45	135	60	180
総計			98	3045	480	675	480	690	510	210
総計			各学年総時間数		1155		1170		720	

98単位内訳（座学　75科目75単位、臨地実習　12実習23単位）
1年次42単位：内訳(座学 41科目41単位、臨地実習　1実習1単位)
2年次38単位：内訳(座学 30科目30単位、臨地実習　4実習8単位)
3年次18単位：内訳(座学　4科目 4単位、臨地実習　7実習14単位)

教科外活動

目的：教科外活動を通して、看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む。

活　動　名	2年次	3年次	ね　ら　い
卒業式	2時間		本校の全課程修了者の証書を授与し、本校の卒業生として自覚と誇りを持ち、社会人・専門職業人となっていくことの自覚を持つ。
		2時間	
宣誓式	4時間		看護師になることを決意し、自分が目指す看護師像を宣誓することにより、専門職業人として自覚を持ち行動する。
ガイダンス	4時間	2時間	自己評価を基に振り返り、今後の課題を明確にするとともに、学習計画を立てる。
国家試験対策	40時間		自己の学力を知り、学力向上を目指す。
		48時間	多くの問題に挑戦し、国家試験の傾向と対策をつかみ、国家試験に合格する。
教育講演	2時間	2時間	見聞を広め、豊かな感情を育て、自己成長につなげる。
接遇研修	2時間		看護学生としてふさわしい接遇を身につける。
ネットモラル研修	2時間	2時間	他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できる。
防災訓練	4時間	4時間	防災意識を高め、災害発生時における自己の身を守るとともに、看護学生としての役割を考える。
健康診断	4時間	4時間	学校保健法に基づき、各自の健康管理と衛生管理について認識を高め、自己の健康の保持増進を目指す機会とする。
地域交流	2時間	2時間	地域の人とふれあい地域の中の一員としての自覚を育む。
ホームカミングディ	8時間	4時間	主体的・計画的に取り組むことで協調性や責任感を養い、学生間の親睦を図る。
キャリア教育	2時間	2時間	専門職業人としての自己のキャリア形成を考える。
HR	14時間	18時間	教科外活動やクラス運営を円滑にするための時間として設定する。
合計時間	90時間	90時間	

Ⅳ 教育課程 概要

1. 教育課程とは

学校の教育目的・目標を達成するために必要な教育内容を学習者の進度に合わせて組み立てた教育活動の計画を教育課程という。その内容には「教科課程」と「教科外活動」がある。

2. 教科課程の構成

1)学科目の位置づけ

〈基礎分野〉

基礎分野は、「科学的思考の基礎」「人間と生活・社会の理解」の学びが求められている。

この分野は入学直後から学修する科目が多く、看護を学修するのに関連する内容であるとともに、看護を実践する者としての人間成長に必要な内容とした。特に看護の対象である人間理解と、サービス提供の基礎となるコミュニケーション、健康理解のために自己の心身の活用方法に重点を置く内容とした。

「科学的思考の基盤」は、論理的に推考し、科学的思考を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容、及び国際化・情報化への対応しうる能力を養えるような内容を含め、本校の教育課程では「看護物理学」「統計学」「情報科学」「生命倫理学」「教育学」「医療英語Ⅰ」「医療英語Ⅱ」の７科目を設定した。

「人間と生活・社会の理解」は、看護の実践には不可欠である人間を幅広く理解するための洞察力を養う科目、及び人間の生活・社会を理解するための科目として、本校の教育課程では、「社会学」「人間関係論」「論理学」「心理学」「死生学」「保健体育」の６科目を設定した。

〈専門基礎科目〉

専門基礎分野は看護の対象である人間を生命体として捉え、その発生・構造・機能とその障害を学び、さらに社会の中で生きる人として捉えながら、人間理解と看護実践の基礎となる科目を設定した。またセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割や地域における社会資源活用や関係機関などとの連携・マネージメント能力の向上につながる内容とした。

「人間の構造と機能」は、対象となる人間の構造と働きや心身に影響を与える要因について理解し、看護活動の中心となる知識を養う科目として、本校の教育課程では、「解剖生理学Ⅰ～Ⅳ」の４科目を設定した。

「疾病の成り立ちと回復促進」は、看護の対象である「人間」が疾病を持ち、治療を受ける存在と定義し、その疾病とは何か、生活者としての患者に与える影響を学ぶ内容とし、本校の教育課程では「生化学」「栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理学Ⅰ～Ⅵ」の１１科目を設定した。

「健康支援と社会保障制度」は、看護活動を行う上で、社会との契約でもある法的根拠を学び、看護活動と社会資源などの連携を学ぶ内容とした。また疾病の危機的状態だけでなく、健康支援としての回復支援者としての看護能力を養える内容とし、本校の教育課程では、「リハビリテーション論」「総合医療論」「医療経済論」「看護関連法令」「社会保障」
「公衆衛生学」の６科目を設定した。

〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学は、基礎分野、専門基礎分野を学んだ上で、専門分野である各領域に共通する看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶものとして、看護の概念、サービスの本質を学び、人間を統合体として捉え、生活者として理解する。そして、科学的、論理的な思考を持って根拠に基づく看護援助について学ぶ。また看護に携わる専門職業人としての自覚や、専門領域の基礎を修得することをねらいとして位置づけた。

また、専門分野Ⅰである基礎看護学は、専門分野Ⅱや統合分野の土台であり、各看護学の基礎となる内容とした。「看護学概論」「看護理論」で看護を構成する概念および看護理論から捉える看護の役割を学ぶ。さらに、看護実践の基礎となる「基礎看護援助論Ⅰ～Ⅶ」において基礎的知識・技術・態度を修得する。特に「基礎看護援助論」は、対象の生活を整えるのに必要な技術として教授し、専門分野Ⅱ、統合分野の学修が効果的に進むように設定した。臨地実習は、観察・コミュニケーションの基本技術を用いて、日常生活行動の援助技術を学び、看護過程の展開を２年次に行う。

当校における特色として、「基礎看護学援助論演習」を専門分野Ⅰに設定した。「基礎看護学援助論演習」においては、看護技術のエビデンスに基づき、基礎的知識・技術・態度を統合し、援助を実践するための基礎的能力を修得する。

〈専門分野Ⅱ〉

専門分野Ⅱでは、基礎分野、専門基礎分野および各看護学に共通する看護の基礎となる「基礎看護学」の学修と関連させながら、対象に応じた健康生活を支えるために必要な基礎から応用までの援助の理論と実践能力を修得し、人々の健康の維持・増進、疾病の予防・回復、安寧な死への援助等、様々な段階における看護実践能力を養う。

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護学実習」で成り立ち、専門職として必要な知識・技術・態度が修得できるようにする。

(1)成人看護学

成人看護学は、ライフスタイルにおける幅広い年齢層が対象である。社会的に重要な役割を担っている。この時期の健康障害は、ライフスタイルや職業など、本人のみならず、周囲に与える影響や負担も必然的に大きくなる。成人期の特徴を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解し、健康段階のレベルに応じた看護実践の特徴を理解することをねらいとし、基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ」の６科目を設定した。

(2)老年看護学

高齢社会における看護のニーズに対し、対象の尊厳を守り老年期特有の問題について理解し、より良い生活の継続を目指すことを目的とした。老年期では、その対象の今までの生活スタイルや今後の社会生活での目標を重視し、出来る限り対象自身で生活を維持できるように援助していくための基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「老年看護学概論」「老年看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(3)小児看護学

少子化が進む我が国において、こどもたちの健康、健やかな成長発達は大きな課題である。小児期は人間について成長するための出発点であり、この時期の過ごし方が、その後の健康生活に大きな影響を与える。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康の回復を促すとともに、すべての小児が、健全な成長・発達を遂げられるために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することも目的とした。

本校では、「小児看護概論」「小児看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(4)母性看護学

各領域にまたがる人の一生の中で生殖に注目した様々な活動を対象とする。リプロダクションの意義を理解し、女性のライフスタイルに応じた看護を学ぶことを目的とした。特徴的な妊娠・出産・産褥・新生児の看護を通し、生命の尊厳や親子・家族の機能への認識を深めることをねらいとした。

本校では、「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

(5)精神看護学

精神看護学の対象は、全てのライフスタイルにある人々である。精神の健康を害した対象の持つ回復能力を理解し、自立への看護を学ぶことを目的とした。また、精神障害において治療における影響は大きい。薬物や治療環境など身体・精神に与える影響を理解し、対象の社会復帰を促すために必要な基礎的知識・技術・態度を修得することを目的とした。

本校では、「精神看護学概論」「精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ」の４科目を設定した。

〈統合分野〉

(1)在宅看護論

地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々の生活を支える看護を実践するために必要な基礎的知識･技術･態度を修得することを目的とした。在宅における日常生活援助の実際、地域包括ケアの機能と専門職種の連携及び社会資源の活用について学び、療養者とその家族の QOL の向上を考慮した看護援助の理解を学修する。

(2)看護の統合と実践

「看護の統合と実践」では、組織における看護師のマネージメント能力の重要性と実際について理解するとともに、災害時や国際社会の場における看護の役割の可能性について学修を充実させ、適切な判断・対応能力を強化する科目として、「医療安全論」「看護管理」「災害・国際看護学」を設定した。

「医療安全論」では、人は間違いをおかす存在であることを自覚した上でエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から『してはならないこと』『すべきこと』を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を修得する。

「看護管理」では、保健医療施設における組織的な看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響を理解する。

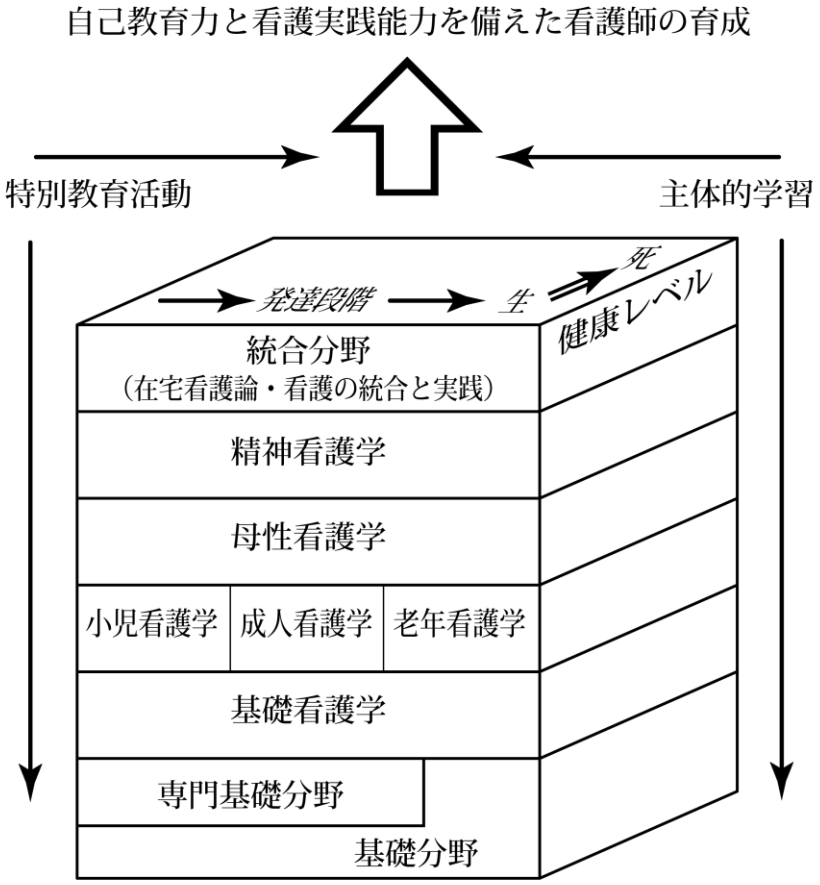
「災害・国際看護学」では、地域を守るための防災対策や看護について学び、看護師としての役割について理解する。

「看護研究」では、研究のための看護の実践ではなく、看護実践の質の向上のために研究が存在し、研究的思考を持って看護を実践することにより、対象への質の高い看護実践が提供できるよう位置づけた。

「統合看護演習」では、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、複雑化する看護の現場に対応できるための準備段階として、実践の場をイメージでき、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を修得する。

看護学実習は、各看護学での実習を踏まえ、３年間の総まとめの位置づけとし、看護専門職としての活動を遂行するために備えておくべき看護実践能力を修得する科目として、総合実習を設定し、看護学の学修の総まとめとする。

教育課程構造図


自己教育力と看護実践能力を備えた看護師の育成
特別教育活動
主体的学習
発達段階
生
死
健康レベル
統合分野
（在宅看護論・看護の統合と実践）
精神看護学
母性看護学
小児看護学
成人看護学
老年看護学
基礎看護学
専門基礎分野
基礎分野

2)学科目一覧

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
基礎分野	科学的思考の基盤	1	15	看護物理学	安全で適切な看護行為を実施するために、バイオメカニクスである人体の運動力学や医療機器の作動原理を学ぶ。
		1	30	統計学	事実事象を論理的・科学的に把握・分析し、客観的に表現するための手段として保健統計学の基礎的手法や標準的手法等を理解する。看護研究に統計学が有用であることを理解し、活用法を学ぶ。
		1	30	情報科学	情報の整理、情報の利用について正しく理解し、インフォームドコンセントや情報開示などの患者の自己決定の支援や患者の尊厳を守るという立場から、医療の進歩と同時に情報科学の進歩も医療を支えている事を理解する。情報を取り扱うものとしてのモラルについて学ぶ。
		1	30	生命倫理学	医療や生命科学に関する倫理的、哲学的、社会的諸問題を知り、生命倫理について理解する。
		1	15	教育学	望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。
		1	30	医療英語Ⅰ	コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通して、外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。
		1	30	医療英語Ⅱ	基礎的な医療・看護用具を使って、臨床場面で簡単な会話を行い、コミュニケーション能力を高める。英語で書かれた医療・看護に関する文献を読解するための基礎を学ぶ。
	人間と生活・社会の理解	1	15	社会学	社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また我々の生活にいかなる影響を及ぼしているのかを理解する。
		1	30	人間関係論	保健医療における連携・協働の意義を理解し、保健・医療・福祉において人間関係が大きく影響することを理解する。人はそれぞれ価値観を有する存在であることを理解し、コミュニケーション技術や自己の人間形成が人間関係に不可欠であることを学ぶ。
		1	30	論理学	論理的思考および言語表記について学び、思考の矛盾や妥当性を判断する能力を習得する。
		1	30	心理学	人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己自身を良く理解する方法を学ぶ。患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。
		1	30	死生学	社会的な背景や伝統の影響を踏まえ、生と死2面性を明確に意識し、社会の広がりと自己の内面とを考慮し、死生観を育む。また死を迎える人と取り巻く人々に対する考え方を学ぶ。
		1	30	保健体育	健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの有能性を知り、運動・スポーツを理解する。心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。
専門基礎分野	人体の構造と機能	1	30	解剖生理学Ⅰ （人体構造・生理学・栄養と吸収・呼吸と血液）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・人体と細胞、生命維持システム、運動・調節システムについて学ぶ。 ・栄養の消化と吸収について学ぶ。 ・呼吸と血液のはたらきについて学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅱ （血液と循環の調整・体液調整・内臓機能の調整）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・血液と循環とその調整について学ぶ。 ・体液の調整と尿の再生について学ぶ。 ・内臓機能の調整について学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅲ （体の支持と運動・外部環境からの防御・生殖・発生と成長・老化の仕組み）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・からだの支持と運動について学ぶ。 ・外部環境からの防御について学ぶ。 ・生殖・発生と成長と老化の仕組みについて学ぶ。
		1	30	解剖生理学Ⅳ （神経系・感覚器・体表から見た人体構造）	解剖学と生理学は、医学の体系のなかでも基礎中の基礎となる領域であり、解剖学によって人体の形態と構造、生理学によって役割と機能について習得する。 ・情報の受容と処理について学ぶ。 ・体表からみた人体の構造について学ぶ。
		1	15	生化学	基礎分野における生命現象の科学の学修を基に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。
		1	15	栄養学	人間にとっての栄養の意義と食生活のあり方に基づき、食事療法の基礎的知識を習得する。
		1	30	薬理学	現代医療においては治療の目的で多種の医薬品が、様々な方法によって患者に投与されている。医療における薬物治療の占める割合は非常に大きく、直接的に患者に関わる看護師は薬理作用や体内動態、副作用や毒性、薬物漏出の危険性などの知識を習得する必要がある。薬剤に関する知識を理解し、服薬・注射・点滴等による与薬や副作用・アレルギー等の観察など、看護師が実施する看護技術の基本について理解する。
		1	30	病理学	対象を理解しより良いケアを行うためには、病理学の知識をもつ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・徴候のメカニズムを理解する。
		1	30	微生物学	環境には、様々な微生物が存在するが、その中で病原微生物を中心に構造、機能、観察方法、増殖感染、治療薬、免疫、滅菌消毒方法を学ぶことで、感染症の現状や院内感染予防等に対する専門的知識を習得する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	1	30	病態生理学Ⅰ （概論・皮膚・免疫・体温）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・病態生理の基礎知識を学ぶ。 ・皮膚・体温調節に関する疾患と治療について学ぶ。 ・免疫に関する疾患と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅱ （体液・血液）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・体液に関する病態と治療について学ぶ。 ・血液に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅲ （循環・呼吸）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・循環器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・呼吸器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅳ （消化器・腎・泌尿器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・消化器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・泌尿器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅴ （内分泌・代謝・生殖器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・内分泌に関する疾患と治療について学ぶ。 ・代謝・生殖器に関する疾患の病態と治療ついて学ぶ。
		1	30	病態生理学Ⅵ （脳・神経・筋・感覚器）	身体を構成している細胞・組織・器官の形態や生理機能に異常な変化が生じることで、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされていることを理解し、疾患の症状・検査・治療法を学習する。 ・脳・神経・筋に関する疾患の病態と治療について学ぶ。 ・感覚器に関する疾患の病態と治療について学ぶ。
	健康支援と社会保障制度	1	30	リハビリテーション論	人間が人間としての権利を回復する活動としてのリハビリテーションの概念と意義を学び、リハビリテーションの方法を理解する。
		1	15	総合医療論	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命とは何か、健康とは、病気とはなど幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。
		1	15	医療経済学	社会における医療の役割、問題点とその背景を医療経済の視点から考察する。
		1	15	看護関連法令	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関する法律を理解できる。
		1	15	社会保障	社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象の生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。
		1	30	公衆衛生学	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健行政活動や疾病の疫学と予防をについて理解する。
専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	看護学概論	看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。さらに看護観を培うことの意義を学習する。
		1	30	看護理論	理論とは、諸現象間の関係について記述し、説明し、予測するために体系づけられた見解である。理論は、現実世界を代表する言葉や象徴から校正される。看護理論には、看護を構成する人間、環境（社会）、健康、看護の概念が含まれており、それらの概念を、看護実践の基礎的な考え方として理解した上で、看護理論を通して看護を研究的視点で実践することの必要性を理解する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅰ （対人関係成立の技術）	1．人間関係成立・発展のための技術を学び、患者及び家族－看護師関係について理解する。 2．ヘルスケアの指導の基礎を学び、看護における教育・指導について理解する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅱ （療養環境に関する技術）	1．人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助を習得する。 2．感染予防の基本的知識及び、感染予防を推進する技術を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅲ （安楽・活動と休息 に関する技術）	1．ボディメカニクスの基本原理を理解し、安全・安楽な体位で効果的・効率的にケアできる基本的な方法を学ぶことが出来る。 2．人間の活動（運動）・休息の意義を理解し、健康生活を送るための援助ができ、安楽な体位の援助ができる。 3．医療安全の基本的知識について理解し、防止法について学び習得できる。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅳ （清潔・栄養・排泄に 関する技術）	1.清潔保持に関する生理的メカニズムを理解し、対象の清潔援助時のアセスメントを行い適切な援助方法を選択し実施できる。 2．栄養と食事のニーズ・排泄のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解し、習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅴ （観察技術 （ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄに 関する技術））	一般状態の観察・生命兆候としてフィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論Ⅵ （検査・与薬 に関する技術）	1．与薬（薬物療法）における法的根拠・目的・用途・方法の基礎知識・技術を理解し、与薬を受ける患者への安全かつ正確に行う援助技術を習得する。 2．皮膚創傷を管理する知識を理解し、創傷を管理する援助ができる。 3．検査・治療の意義及び、看護師の役割を理解できる。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野Ⅰ	基礎看護学	1	30	基礎看護学援助論Ⅶ （看護過程）	看護を行う上での思考過程として概要を学び、看護の対象者がもつ問題を明確にして解決していく過程を習得する。
		1	30	基礎看護学援助論演習	看護の対象とする対象の疾患、症状、治療・処置を関連付け、看護技術のエビデンスに基づき、基本技術・援助技術を統合し、援助を実践するための基礎的能力を習得する。
	臨地実習	1	45	基礎看護学実習Ⅰ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。入院している患者との出会い、対象を取り巻く環境や基本的欲求を理解する。
		2	90	基礎看護学実習Ⅱ	人々の生活を環境と健康の関係から理解し、看護を実践していく基盤を形成する。つまり実習での体験を意味づけ、看護を学ぶ動機づけをする。 看護過程という看護の専門技術を使って看護を体験し、科学的な看護の意義を理解し、各看護学へと発展させていく基盤とする。
専門分野Ⅱ	成人看護学	1	30	成人看護学概論 （看護の対象と目的）	1. 成人期における対象の特性を理解する。 2. 生活習慣やライフサイクルと健康問題との関連を理解する。 3. 成人の学習の特徴を活用した健康行動促進のための看護アプローチを理解する。 4. 成人看護の役割を理解する。 5. 成人看護に有用な諸理論を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅰ （生活行動に障害のある患者の看護）	1. 健康障害がもたらす役割変化と自己概念の受容を理解する。 2. セルフケア能力再獲得に向けた援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅱ （周手術期にある患者の看護）	1. 手術に伴う身体侵襲を理解する。 2. 手術に伴うボディイメージの変化を理解する。 3. 機能の障害・喪失に対する援助を理解する。 4. 手術後の自己管理に関する援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅲ （緩和ケアを必要とする患者の看護）	1. 緩和ケアにおける全人的な痛みを理解し、その援助法を学ぶ。 2. 死にゆく人の心理過程を理解する。 3. 緩和ケアにおける家族の悲嘆に伴う援助を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅳ （生命の危機的状態にある患者の看護）	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. 救急時の基本的技術を習得する。 4. クリティカルな場における看護の役割を理解する。
		1	30	成人看護学援助論Ⅴ （生涯にわたり健康コントロールを必要とする対象者の看護）	1. 疾病をコントロールしながら生活する対象を理解する。 2. 成人の学習の特徴をふまえ、セルフマネジメントと自己効力感を高めるための援助を理解する。
	老年看護学	1	30	老年看護学概論 （看護の対象と目的）	1. 老年者を取り巻く社会の動向を理解する。 2. 老年者の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 3. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する。 4. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅰ （老年期の日常生活援助）	1. 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解する。 2. 老年者の特性をふまえた援助方法を理解する。 3. 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解する。
		1	30	老年看護学援助論Ⅱ （老年期の健康障害時の看護）	1. 老年者に特有な健康障害を理解する。 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する。
		1	15	老年看護学援助論Ⅲ （老年期の健康障害時の援助技術・看護過程）	1. 事例を基に健康障害をもつ健康問題を理解する。 2. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	小児看護学	1	30	小児看護学概論 （看護の対象と目的）	1. 小児の成長発達と発達課題を理解する。 2. 小児のヘルスプロモーションと看護を理解する。 3. 小児を取り巻く社会状況と動向を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅰ （小児の療養環境と看護）	1. 健康障害や療育環境が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 2. 小児の成長発達・健康上の課題に応じた看護を理解する。
		1	30	小児看護学援助論Ⅱ （小児の主な疾患と看護）	1. 小児に出現しやすい健康障害および診断・治療に関する基礎的知識を理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術を習得する。
		1	15	小児看護学援助論Ⅲ 疾病・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）	1. 小児の成長発達・健康問題に応じた看護を理解する。 2. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 3. 事例を基に健康障害をもつ小児の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	母性看護学	1	30	母性看護学概論 （看護の対象と目的）	女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識と技術を習得し、次世代の健全育成を目指す看護について理解する。
		1	30	母性看護学援助論Ⅰ （妊産褥婦・新生児の生理機能）	妊産婦のマタニティサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴及び、新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。

領域	区分	単位	時間数	授業科目の名称	学習のねらい
専門分野Ⅱ	母性看護学	1	30	母性看護学援助論Ⅱ （妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護）	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象が順調に経過をたどるための看護師の役割・援助方法について基礎知識を学び、異常の早期発見・健康回復のための援助を理解する。また、正常経過にある母子をウェルネスの視点で捉え、よりよい状態に向かえるよう知識を活用する。
		1	15	母性看護学援助論Ⅲ 妊産褥婦・新生児の援助技術（看護過程）	事例の展開を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。
	精神看護学	1	15	精神看護学概論 （看護の対象と目的）	1．ライフサイクルにおけるこころの健康問題を理解する。 2．社会の価値規範やしくみが心の健康に及ぼす影響を理解する。 3．精神保健医療の現状をとらえ、精神看護の役割と機能を理解する。
		1	30	精神看護学援助論Ⅰ （精神疾患の理解と治療）	1．主な精神障害とその症状を理解する。 2．こころの健康障害を持つ対象の苦悩と援助を理解する。 3．こころの健康障害のある対象の権利擁護の現状と課題を理解する。
		1	30	精神看護学援助論Ⅱ （精神看護の実際とその倫理）	1．ノーマライゼーションと精神科リハビリテ-ションの現状を理解する。 2．こころの健康障害を持つ対象の社会復帰や自立に向けた援助をを理解する。
		1	15	精神看護学援助論Ⅲ （精神障害のある患者の援助技術・看護過程）	1．ロールプレイングを通して治療的人間関係の成立と発展過程を理解する。 2．プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3．事例を基にこころの健康障害をもつ対象の看護過程を展開する基礎的能力を養う。
	臨地実習	2	90	成人看護学実習Ⅰ	慢性の経過をたどる患者への看護を通してセルフコントロールを促すための看護を学修する。患者が疾患や障害を受容していく過程における患者理解と支援、健康障害を持ちながら生涯にわたり、疾患をコントロールし、社会生活を送るための患者や家族への指導方法を学修する。
		2	90	成人看護学実習Ⅱ	手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を実践し、回復に向けての患者と家族への看護を患者と家族への看護を学修する。
		2	90	成人看護学実習Ⅲ	健康の急激な破綻状況にある対象あるいはターミナル期にあり、生命の危機状態にある対象と家族への看護を学修する。
		2	90	老年看護学実習Ⅰ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。 自立した高齢者を対象として、健康を維持してその人らしく生活していくための看護を学修する。
		2	90	老年看護学実習Ⅱ	老年期の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護を学修する。健康障害や治療のため自立した生活を送ることが困難である高齢者を対象とし、セルフケア能力を高めることを目的とした残存機能を踏まえた看護を学修する。
		2	90	小児看護学実習 （保育所実習30時間を含む）	子供の成長・発達を促すための看護を学修する。保育所や医療福祉施設で生活している子どもとの関わりを通して、子どもの成長発達を観察し、看護の役割を学修する。さらに健康障害が子どもの発達に与える影響を踏まえ、健康回復・健康保持増進への看護を学修する。健康障害をもつ母親・父親への理解と支援について学修する。
		2	90	母性看護学実習	周産期にある母子およびその家族の特性を理解し、母子の健康と親子関係の促進を目指した援助を実践できる基礎的能力を習得する。その方法として、母性看護の対象の健康問題をアセスメントし、正常過程にある母子をウェルネスの視点でとらえ、よりよい状態に向かうための看護を習得する。
		2	90	精神看護学実習	こころの健康障害をもつあらゆる発達段階の人を対象として、こころの状態をコントロールしながら生活するための看護を学修する。
統合分野	在宅看護論	1	30	在宅看護概論 （看護の対象と目的）	在宅介護の歴史や社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々及び障害を持ちながら生活する人々と、その家族の特性を理解し、在宅における看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を学習する。
		1	15	在宅看護援助論Ⅰ （在宅療養者に関連する制度と展開）	在宅ケアシステムにおける看護の役割と在宅看護における多職種との連携・協働の在り方、展開における各制度を学習する。
		1	30	在宅看護援助論Ⅱ （在宅における日常生活援助技術と実際）	在宅療養者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本看護技術・特殊な看護技術を学習する。
		1	15	在宅看護援助論Ⅲ （在宅援助技術・看護過程）	在宅看護過程の特徴を学び、在宅看護を展開する。一連の過程である情報収集、アセスメント、実践、計画を学ぶ。また、事例を通して対象別の在宅看護過程の展開方法を学ぶ。
	看護の統合と実践	1	30	医療安全論	人間は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点から「してはならないこと」「するべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。
		1	30	看護管理	保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響について理解する。
		1	30	災害・国際看護学	1．地域を守るための防災対策や救護・看護について学び、看護師としての役割を理解する。 2．災害や世界の保健医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性と役割について理解する。
		1	30	看護研究	1．研究の意義と方法を理解する。 2．看護活動と研究の関連について理解し、看護研究の基礎を学ぶ。
		1	30	統合看護演習	これまでに学んだ知識・技術を統合し、看護学実習に即した方法を用いて援助を行い、対象の状況に応じた判断による基礎的な実践能力を養う。
	臨地実習	2	90	在宅看護論実習	あらゆる発達段階にあり、性別、領域を問わないものとし、在宅で療養する対象とその家族への看護を学修する。訪問看護活動や地域における保健活動を知ることにより、地域社会で充実ある生活ができるための基礎的な看護実践能力を養う。
		2	90	統合実習	今まで学んだ知識・技術・態度をもとに看護実践能力を高めることを目指す。複数の患者を複数の学生で受け持ち、看護上の問題の優先性を考えたうえでの看護体験する。看護管理の実際を知ることにより、看護チーム及び医療チームにおける看護師の役割を学修する。

基礎分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	科学的思考の基盤	生命倫理学	1	30	2学年後期	粟屋　剛 于　麗玲 土井　英子

授業目標	患者の自己決定権の保障を含めて患者の人権擁護は医療現場での重要な課題である。本講義は受講生に、患者の人権擁護の問題、広く生命倫理の問題について看護専門職として的確な判断ができる基礎的能力を養ってもらうことを目的とする。

授業計画		担当	備考
1	ガイダンス 生命倫理・医療倫理・倫理とは何か	于	講義
2	人間論		
3	生殖医療をめぐる法と倫理		
4	優生学		
5	脳死・臓器移植をめぐる倫理的、法的、社会的問題	粟屋	
6	死生論		
7	安楽死・尊厳死論		
8	看護行為の法的責任と倫理的責任	土井	
9	患者の自己決定権とインフォームド・コンセント		
１０	看護アドボカシー		
１１	チーム医療と看護倫理		
１２	看護職者の倫理的感受性と対処行動		
１３	看護職者の倫理的感受性と対処行動　事例検討		
１４	看護職者の倫理的感受性と対処行動　事例検討		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	粟屋・于(終講試験 50%)　土井(終講試験 20%、レポート 30%)
テキスト	◇生命倫理学/医療と法　講義スライドノート第3版　著：粟屋剛　ふくろう出版
参考図書	
履修上の注意点	遅刻、私語、スマートフォンは厳禁。授業出席と日常の学修が重要である。 道徳や倫理に関心を持ち、身の回りの人との価値観の相違や葛藤が生じた時や何かおかしいと思った時には事例として書き留めておくこと。

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
基礎分野	人間の生活・ 社会の理解	死生学	1	30	3学年後期	稲村　秀一

授業目標	生物的生命の限界である「死」は必ずやってくる。この死をいかに受容（理解）するか。この死に向かって、いかに「生きる」かが問われなければならない。この「生と死」の関係を巡って、東西の哲学・宗教思想史ではどのように考えられてきたのかを検討する。医療の現場で、死にゆく人に立ち会う看護者には自らの死生観が問われるが、そのための準備に役立つことを目指す。

授　業　計　画		担当	備考
1	序論　―⑴死生学とは、死生学を学ぶ意義 ⑵確かな生物的死とその受容	稲村	講義
2	第１章　現代社会と死の現象 ⑴死の忘却へと誘惑する現代 ⑵「生の中に死が在り、死のなかに生がある」		
3	第２章　死と「いのち」の多様な現象 ⑴＜円熟としての死＞と＜不慮の死＞ ⑵生物的死を超えて生き続ける＜人格のいのち＞		
4	第３章　人間における「生」と「死」の意味 −人間存在の五次元の「生と死」について−		
5	第４章　西洋思想史における人間観と死生観 ⑴ギリシア哲学（ヘレニズム）の観点		
6	⑵キリスト教思想（ヘブライズム）の観点		
7	キリスト教思想（ヘブライズム）の観点（続） ⑶現代の実存主義思想（キルケゴール、ハイデッガー，サルトル）の観点		
8	第５章　東洋思想史における人間観と死生観 ⑴仏教思想の観点		
9	仏教思想の観点（続）		
１０	⑵儒教思想の観点		
１１	第６章　日本人の人間観と死生観 ⑴日本人の伝統的な人間観		
１２	⑵日本人の一般的な死生観		
１３	日本人の一般的な死生観（続）		
１４	第７章　祝福される死　−われわれの死生観についての＜まとめ＞−		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	授業の理解をレポート（30%）・終講試験（７0%）で総合評価する
テキスト	テキストは使用しない。毎回資料を配付する。
参考図書	授業中に指示する。
履修上の注意点	「死と生」について問題意識を持って真摯に授業を聴き、理解し各自の考えを明確にすること。

専門基礎分野

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	リハビリテーション論	1	30	2学年前期	谷　康登志

授業目標	リハビリテーションの概念と意義を学びチーム医療での役割が理解できる

授業計画		担当	備考
1	リハビリテーションの理念と視点	谷	講義
2	リハビリテーションの歴史		
3	リハビリテーションの目標と評価①		
4	リハビリテーションの目標と評価②		
5	リハビリテーションの目標と評価③		
6	関節可動域の評価、測定法		実習室
7	ボディメカニズムについて　＜肢位・基本動作＞		実習室
8	ボディメカニズムについて　　＜ADL＞		実習室
9	関節可動域の評価、小テスト		実習室
１０	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護　＜評価、視点、実技＞①		実習室
１１	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護　＜評価、視点、実技＞②		実習室
１２	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護　＜評価、視点、実技＞③		実習室
１３	運動器・中枢疾患でのリハビリテーション看護　＜評価、視点、実技＞④		実習室
１４	リハビリテーション総論		講義
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験（90%）　　小テスト（10%）
テキスト	系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　著：武田宣子[ほか]　医学書院
参考図書	
履修上の注意点	

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	総合医療論	1	15	2学年前期	赤木　忠厚

授業目標	医学・医療の歴史および医療の現状と課題を学ぶことで、医療・看護の原点はどこにあるか、生命・健康・病気とは何かなど、幅広い視点から保健・医療・福祉を理解する。

授業計画		担当	備考
1	医療コミュニケーションの原点にさかのぼる 医療と看護の原点ー病と癒し	赤木	講義
2	医療の歩みと医療観の変遷		
3	私たちの生活と健康①（A～C）		
4	私たちの生活と健康②（D～F） 科学技術の進歩と現代医療の最前線		
5	現代医療の新たな課題		
6	医療を見つめ直す新しい視点		
7	保健・医療・福祉の潮流		
8	終講試験		

評価方法	終講試験（100%）で評価を行う。
テキスト	◇系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度①　総合医療論　著：小泉俊三[ほか] 医学書院
参考図書	
履修上の注意点	講義はパワーポイントを使用して行い、講義内容はプリントして資料を配布する。

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	看護関連法令	1	15	2 学年後期	小河達之

授業目標	看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。

授業計画		担当	備考
1	法の概念	小河	講義
2	衛生法 厚生行政のしくみ 看護法（保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の促進に関する法） 医事法（医療法等） 患者や家族に関連する法律や社会保障		
3			
4			
5	保健衛生法 ① 共通保健法 ②分野別保健法 ③感染症に関する法 ④食品に関する法 薬務法 ① 医薬品 ② 毒物等		
6	環境衛生法 ① 営業 ② 環境整備 社会保険法 ① 費用保障 ② 年金・手当		
7	福祉法 ① 福祉の基盤 ② 児童分野 ③ 高齢分野 ④ 障害分野 労働法と社会基盤整備 ① 労働法 ② 社会基盤整備等 ① 環境法・環境保全の基本法 ② 公害防止法 ③ 自然保護法		
8	終講試験		

評価方法	終講試験 100%
テキスト	◇系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関連法令 著：森山幹夫 医学書院
参考図書	◇公衆衛生がみえる 2022-2023 編集：医療情報科学研究所 メディックメディア
履修上の注意点	

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	30	2 学年後期	末丸　克矢

授業目標	公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。

授　業　計　画		担当	備考
1	公衆衛生と国際保健（ＷＨＯ）	末丸	講義
2	産業保健（労働衛生）と災害保険		
3	水系感染と食品衛生		
4	環境衛生		
5	感染症の分類と対策（感染症法）		
6	感染症と予防接種		
7	ＥＢＭと疫学		
8	人口統計と保健統計		
9	疾病統計と精神保健		
１０	母子統計と母子保健		
１１	学校保健と難病対策		
１２	癌保健と緩和ケア		
１３	成人保健と生活習慣病		
１４	老人保健		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	期末試験（100%）と平常点により評価する
テキスト	◇系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生 著：神馬征峰［ほか］　医学書院
参考図書	
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学援助論演習	1	30	2学年前期	戸梶　里奈 平田　優樹 河田　和美

授業目標	1．看護を必要とする対象の疾患、症状、治療、処置を関連づけ、看護技術のエビデンスに基づき、援助を実践するための基礎的能力を習得する。

授業計画		担当	備考
1	排泄困難を訴える患者の援助 1） 間欠的導尿　　2）持続的導尿（膀胱留置カテーテル）	戸梶	講義
2	援助の実際　　導尿		演習
3	排泄困難を訴える患者の援助 3）　摘便　　4）浣腸		講義
4	援助の実際　　浣腸		演習
5	排泄困難を訴える患者の看護 5）ストーマ		講義
6	呼吸困難を訴える患者の看護 1） 酸素吸入療法（カニューラ・マスク・中央配管式・酸素ボンベ）	平田	講義
7	呼吸困難を訴える患者の看護 2）排痰ケア（体位ドレナージ、吸引：口腔・鼻腔・気管内）		
8	3）吸引（モデル人形・口腔内・鼻腔内・気管内） 4）吸入（ネブライザー吸入）　　5）人工呼吸療法		
9 10	呼吸を整える技術演習 1）口腔・鼻腔からの吸引　　2）気管切開部からの吸引 3）カニューレ・酸素マスクの酸素吸入 4）体位ドレナージ		演習
11	嚥下困難を訴える患者の看護 1）経鼻経管栄養法　2）経瘻管栄養法　3）非経口栄養法	河田	講義
12 13	モデル人形を使用しての経鼻経管栄養法 経鼻カテーテル挿入・固定・抜去方法の実際		演習
14	中心静脈栄養法　末梢循環促進ケア		講義
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 100％
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　著：有田清子［ほか］　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　著：有田清子［ほか］　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院
参考図書	・看護技術プラクティス［第３版　動画付き］　監修：竹尾惠子　学研
履修上の注意点	事例を用います。根拠を考えながら演習に取り組みましょう。 授業には積極的に参加し、援助方法を習得しましょう。

専門分野 I

専門分野Ⅱ

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅰ 生活行動に障害のある患者の看護	1	30	2学年前期	半田　直子 平田　優樹 戸梶　里奈

授業目標	1．生活行動に障害のある患者の特徴、看護の役割が理解できる。 2．慢性期において医療を必要とする患者の基本的な看護援助方法が理解できる。 3．各機能障害にある患者を総合的に理解し、予測される問題や解決のための基本的な看護援助方法が理解できる。

授業計画		担当	備考
1	生活行動に障害のある患者の特徴、看護の役割について	半田	講義
2	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護 ①高次機能障害　②運動機能障害　③感覚機能障害		
3	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護 ①脳梗塞後遺症患者の看護　②脊髄損傷患者の看護		
4	呼吸機能障害のある患者の看護　症状　①呼吸困難　②チアノーゼ		
5	呼吸機能障害のある患者の看護　疾患　①肺がん　②気胸		
6	循環機能障害のある患者の看護　①心不全患者の看護	平田	
7	循環機能障害のある患者の看護　②狭心症・心筋梗塞患者の看護		
8	循環機能障害のある患者の看護　①教育支援 1)事例展開をもとに生活指導		
9			
10	栄養代謝能障害のある患者の看護　【肝硬変事例展開】	戸梶	
11	栄養代謝能障害のある患者の看護　①肝炎患者の看護②肝硬変患者の看護		
12	栄養代謝能障害のある患者の看護　③肝臓がん患者の看護		
13	栄養代謝能障害のある患者の看護　④膵炎患者の看護		
14	消化吸収機能障害のある患者の看護 ①潰瘍性大腸炎患者の看護②クローン病患者の看護		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 85%　　小テスト 15%
テキスト	・成人看護学　慢性期看護論　第3版　編集：鈴木志津枝、藤田佐和　　ヌーベルヒロカワ ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳・神経　　著：竹村信彦　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③　循環器　　著：吉田俊子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑤　消化器　　著：松田明子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器　　著：浅野浩一郎　医学書院
参考図書	・看護過程に沿った対症看護　監修：高木永子　学研メディカル秀潤社 ・疾患別看護過程の展開　第4版　監修：山口瑞穂，関口恵子　学研
履修上の注意点	事前に各疾患の病態関連図を作成し授業に参加しましょう。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅱ 周手術期にある患者の看護	1	30	2学年前期	湯浅　有加里

授業目標	１．手術侵襲による生体反応を理解できる。 ２．術前・術中・術後に応じた看護の役割を理解できる。 ３．主要な術後合併症の要因、患者への影響、予防的ケア・対処ケアを理解できる。 ４．手術後の自己管理に関する援助を理解できる。

授業計画		担当	備考
1	周手術期の考え方　　周手術期看護の特徴 手術侵襲による生体反応　/　周手術期にある人への看護援助の特徴	湯浅	講義
2	周手術過程に応じた看護 術前の看護 /　インフォームドコンセント 手術オリエンテーション 身体準備/手術室入室		
3	術中の看護　　麻酔導入・手術体位の固定/看護師の役割/麻酔覚醒時の援助		
4 5 6	術後合併症予防の看護・術後の看護 術直後のモニタリング　/　術後回復促進ケア/退院に向けたケア術後合併症と予防のための看護技術		
7	術式による特徴的な手術看護 呼吸機能障害のある患者の看護 / 開胸術（肺）/ 胸腔内ドレナージ管理		
8	循環機能障害のある患者の看護 / PCI(冠動脈)		
9	脳・神経機能障害のある患者の看護 / 脳室ドレナージ管理		
１０	女性生殖器障害のある患者の看護/乳房切除術		
１１	消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術（大腸）/ストーマ造設		
１２	消化・吸収機能障害のある患者の看護 / 開腹術（胃）		
１３	看護過程の展開①　胃切除を受けた患者の看護事例 事例紹介（DVD）/アセスメント/関連図		演習
１４	看護過程の展開②　胃切除を受けた患者の看護事例 看護問題抽出/看護計画・評価		演習
１５	終講試験 まとめ		

評価方法	終講試験８０％　　レポート２０％
テキスト	・周手術期看護論　編：雄西智恵美，秋元典子　ヌーヴェルヒロカワ ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器　著:川村雅文　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③　循環器　著:吉田俊子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑤　消化器　著:松田明子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳･神経　著:吉岡成人　医学書院
参考図書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①成人看護学総論　医学書院
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
成人看護学	専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅲ 緩和ケアを必要とする患者の看護	1	30	2学年後期	湯浅　有加里 河田　和美

授業目標	終末期にある対象の身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的変化・症状について学習する。 １．終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念、制度、倫理的課題について理解できる。 ２．終末期にある患者の代表的な症状が患者に与える影響及び緩和方法を理解できる。 緩和ケアを必要とする対象の理解と具体的な介入について学習する １．がん医療、がん治療の基本的な考え方と治療に対する看護が理解できる。 ２．がん患者とその家族の特徴と援助ににについて理解できる。 ３．緩和ケアにおける具体的な介入方法について理解できる

授業計画			担当	備考
1	緩和・ターミナルケア看護とは	倫理的課題　チーム医療	湯浅 河田	講義
2	終末期にある人の理解	身体的特徴　全人的苦痛		
3	終末期にある人とその家族の理解	死の受容過程 予期的悲嘆　悲嘆		
4 5	終末期にある人の症状と緩和ケア	倦怠感・浮腫・呼吸器症状 消化器症状　精神症状		
6	終末期にある人の症状と緩和ケア	痛み		
7	がん医療と看護	現在と動向　心理的サポート		
8	がん治療に対する看護①	薬物療法		
9	がん治療に対する看護②	手術療法・放射線療法		
１０ １１	造血機能障害をもつ患者の看護	白血病・悪性リンパ腫患者の看護		
１２	感染症を持つ患者の看護	HIV感染症患者の看護		
１３	緩和ケアにおける看護介入①			
１４	緩和ケアにおける看護介入②			
１５	終講試験			

評価方法	終講試験
テキスト	・成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論　第２版　編集：鈴木志津枝、藤田佐和　ヌーベルヒロカワ ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護総論　著：小松浩子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④　血液・造血器　著：飯野京子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑪　アレルギー膠原病感染症　著：岩田健太郎　医学書院
参考図書	・看護過程に沿った対症看護　監修：高木永子　学研メディカル秀潤社 ・疾患別看護過程の展開　第５版ｗ　監修：山口瑞穂，関口恵子　学研 ・系統看護学講座　別巻　がん看護学　著：小松浩子　医学書院 ・系統看護学講座　別巻　緩和ケア　著：恒藤暁・内布敦子　医学書院
履修上の注意点	事前・事後学習が重要になるので、主体的に取り組みましょう。 事前学習：事前に教科書を読み、授業計画に示した代表的な疾患の治療、検査、看護のポイントをおさえておきましょう。 事後学習：事前に整理したポイントを講義で学習した内容を踏まえて追加、修正しましょう。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅳ 生命の危機状態にある患者の看護	1	30	2学年 後期	西村　祐枝 田渕　郁朗 湯浅　有加里

授業目標	1. 生命危機状態にある対象の身体的特徴を理解する。 2. 生命危機状態にある対象および家族の心理、社会的特徴を理解する。 3. クリティカルな場における看護師の役割を理解する。 4. くも膜下出血患者の事例を通して、看護過程を展開できる。

	授　業　計　画	担当	備考
1	急性期看護の特性 ①救急看護の概念と現状　②看護師に求められる能力と場の特徴 ③急性期にある人とその家族の特徴	田渕	講義
2	ショック状態にある患者の看護 播種性血管内凝固を合併した患者の看護		
3	急性の循環機能障害のある患者の看護　急性心筋梗塞		
4	急性の循環機能障害のある患者の看護　急性脳出血・脳梗塞		
5	急性の生体防御機能障害のある患者の看護 ①熱傷　②急性中毒		
6 7 8	集中治療下での看護 ① 呼吸管理 / 人工呼吸器装着中の患者の看護 ② 体液・循環管理 / 体液バランスと循環のモニタリング ③ 心臓カテーテル・中心静脈圧 ④ 心理・精神的支援　家族支援	西村	講義
9	急性の脳・神経機能障害のある患者の看護 くも膜下出血患者の看護 ① 事例紹介② アセスメント	湯浅	演習
１０	くも膜下出血患者の看護　③ 関連図　④ 問題点抽出		
１１	くも膜下出血患者の看護⑤ 看護計画		
１２ １３ １４	救急処置法の実際（BLS 講習）	日赤 （湯浅）	演習
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 70％（田渕 50 点・西村 20 点）レポート 30％(湯浅)
テキスト	・成人看護学　急性期看護論　ヌーヴェルヒロカワ ・系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院 ・系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　著:矢永勝彦, 小路美喜子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器　著:川村雅文　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学③　循環器　著:吉田俊子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④　血液・造血器　著:飯野京子　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳・神経　著:吉岡成人　医学書院
参考図書	・疾患別看護過程の展開　第4版　監修:山口瑞穂子, 関口恵子　学研
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学援助論Ⅴ 生涯にわたり健康コントロールを必要とする患者の看護	1	30	2学年前期	高山　典子

授業目標	
	1. 各疾患の代表的な治療法と具体的な看護援助について説明することができる。 2. 慢性病をもつ人とその家族のセルフマネジメント能力を高めるための具体的方法について述べることができる。 3. 慢性腎不全患者へのセルフケアマネジメントを踏まえた患者支援を行うことができる。 4. 慢性病を有する患者の看護過程を展開することができる。

授業計画		担当	備考
1	慢性期看護の考え方　慢性期にある人の特徴と看護援助	高山	講義
2	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護　甲状腺機能障害		
3	身体防御機能障害のある患者の看護 膠原病:全身性エリテマトーデス・リウマチ		
4	慢性の内部環境調節障害のある患者の看護 慢性腎不全をもつ患者の看護①　慢性腎臓病		
5	慢性腎不全をもつ患者の看護②　血液透析、腹膜透析		
6	慢性の代謝機能障害にある患者の看護　脂質異常症　痛風		
7	慢性の代謝機能障害にある患者の看護　糖尿病		
8	糖尿病を持つ患者の看護①　事例　アセスメント		演習
9	糖尿病をもつ患者の看護②　関連図		
１０	糖尿病をもつ患者の看護③　問題点抽出		
１１	糖尿病をもつ患者の看護④　看護計画立案		
１２	糖尿病をもつ患者の看護⑤　退院への支援		
１３	事例・パンフレット作成・患者指導		
１４	糖尿病をもつ患者の看護⑤　評価　まとめ		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 80%、グループワーク・課題提出（ルーブリック評価）20%
テキスト	・成人看護学　慢性期看護論　第３版　編集：鈴木志津枝、藤田佐和　ヌーヴェルヒロカワ ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑥　内分泌・代謝　著：吉岡成人　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑧　腎・泌尿器　著：河邊博史　医学書院 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑪　アレルギー・膠原病・感染症　著：岩田健太郎　医学書院
参考図書	・看護過程に沿った対症看護　監修：高木永子　学研メディカル秀潤社 ・疾患別看護過程の展開　第４版　監修：山口瑞穂，関口恵子　学研
履修上の注意点	課題は提出日を厳守。率先的にグループワークに参加すること。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30	2学年前期	高﨑　栄子 井上　順子

授業目標	1．高齢者の特性をふまえた援助方法を理解する。 2．高齢者の生活機能を整えるために必要な看護について理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント　1　①発熱 ②痛み ③掻痒 ④脱水	高﨑	講義
2	高齢者によくみられる身体症状とアセスメント　2　①嘔吐　②浮腫 ③倦怠感　④褥瘡・スキン-テア		
3 4 5	日常生活を支える基本的活動　①基本動作と環境のアセスメントと看護 ②転倒のアセスメントと看護 ③廃用症候群のアセスメントと看護		
6 7	食事・食生活　①食生活に着目する意義 ②高齢者に特徴的な変調 ③摂食・嚥下機能のアセスメントと看護 ④食事に対する看護		
8 9	排泄　①排泄ケアの基本姿勢　②排泄障害のアセスメントと看護		
10	清潔　①清潔の意義 ②高齢者に特徴的な変調 ③清潔のアセスメントと看護		
11	高齢者と生活リズム　①高齢者に特徴的な変調　②生活リズムのアセスメント 高齢者とコミュニケーション①高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方 ②高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 ③コミュニケーション障害のアセスメントと看護	井上	講義
12	高齢者の死にかかわる権利の擁護 ①終末期の捉え方　②アドバンスディレクティブ　③リビングウィル		
13 14	高齢者の終末期における看護　①家族の参加と支援　②チーム支援の意義と役割 終末期看護の実践　①介護する家族の生活と健康　②介護する家族への看護		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	授業内で適宜実施する小テスト（10%）、終講試験（90%）で総合評価する
テキスト	・系統看護学子講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　著：北川公子　他　医学書院 ・生活機能からみた　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　編：山田律子、荻野悦子、井出訓　医学書院
参考図書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　著：佐々木英忠　他　医学書院 ・根拠と事故防止からみた　老年看護技術　編：亀井智子　医学書院
履修上の注意点	

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野 Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30	2学年前期	平田 優樹 髙山 典子 高崎 栄子
授業目標	1．高齢者に特有な健康障害を理解する 2．高齢者の健康障害に応じた援助方法を理解する					

	授　業　計　画	担当	担当
1	検査・治療を受ける高齢者の看護 ①円滑な検査実施への援助　②薬物療法における援助	平田	講義
2	入院治療・リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ①入院に伴う環境の変化　②生活機能向上につなぐ看護		
3	疾患を持つ高齢者の看護 ① 骨筋系（骨粗鬆症・骨折等）	髙山	講義
4	② 循環器系　（心不全・虚血性心疾患）	平田	
5	③ 呼吸器系　（肺結核・肺炎）	髙山	
6	④ 感覚器系（白内障・難聴等）		
7	⑤ 泌尿器系（前立腺肥大症・前立腺がん・膀胱がん）		
8	⑥ 脳外・神経系　（パーキンソン病等）		
9	⑦ 褥瘡・皮膚		
10 11	⑧ 認知機能の障害：うつ・せん妄・認知症		
12	生活・療養の場における看護の展開 ① 在宅高齢者　②保健・医療・福祉施設における看護	高崎	講義
13 14	高齢者のリスクマネジメント ①高齢者と医療安全　②救命救急　③災害看護		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	授業内で適宜実施する小テスト、授業の理解をレポート（20%）・終講試験（80%）で総合評価する
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　著：北川公子　他　医学書院 ・生活機能からみた　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　編：山田律子、荻野悦子、井出訓　医学書院
参考図書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　著：佐々木英忠　他　医学書院 ・ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　編：堀内ふき、大渕律子、諏訪さゆり　メディカ出版 ・老年看護学　概論と看護の実践第５版　編：奥野茂代、大西和子　ヌーヴェルヒロカワ
履修上の注意点	

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術 （看護過程）	1	15	2学年後期	髙山　典子 高﨑　栄子

授業目標	1．健康障害をもつ高齢者の事例をもとに看護過程を展開できる。 2．高齢者のもてる力を発揮できるために高齢者アクティビティ（レクリエーション）の実践を考えることができる。

授業計画		担当	備考
1	高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 ①高齢者が望む生活を中心とした看護過程 ②生活行動モデルによる看護過程 ③目標志向型思考看護過程	高﨑	講義
2 3 4 5 6	看護過程演習 紙上事例展開　認知症のある高齢者 ①情報収集とアセスメント ②全体像 ③もてる力と看護の焦点抽出・明確化 ④看護計画立案 ＊グループワーク		演習
7 8	高齢者アクティビティ ・高齢者アクティビティとは ・高齢者アクティビティの効果 ・高齢者アクティビティの計画立案　＊グループワーク	髙山	講義

評価方法	看護過程演習課題　80%　　グループワーク・演習　20%
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　　著：北川公子　他　　医学書院 ・生活機能からみた　老年看護過程＋病態・生活機能関連図　編：山田律子、荻野悦子、井出訓　医学書院
参考図書	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　著：佐々木英忠　他　医学書院 ・ナーシンググラフィカ　老年看護学②高齢者看護の実践　編：堀内ふき, 大渕律子, 諏訪さゆり　メディカ出版 ・根拠と事故防止からみた　老年看護技術　編：亀井智子　医学書院
履修上の注意点	事前学習：事例における疾患の病態・治療・看護のポイントを学習しておくこと

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	小児看護学	小児看護学援助論Ⅰ 小児の療養環境と看護	1	30	2学年前期	山口　そのえ

授業目標	1．健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解し、子どもと家族への援助を学ぶ。 2．子どもの成長発達や健康上の課題に応じた看護を理解できる。 3．子どもに必要な検査・処置、援助技術を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1	病気・障害をもつ子ども・家族への看護 1）子どもの病気の理解　2）健康障害に伴う子どものストレスと対処 3）子どものストレス対処への支援　4）子どもの健康障害に伴う家族のストレス 5）病気の子どもの家族のストレス対処に対する援助	山口	講義
2	急性期にある子どもと家族への看護　（救急救命処置が必要な子どもと家族への看護） （1）発熱時の看護　（2）脱水時の看護　（3）痙攣時の看護 （4）呼吸困難時の看護　（5）嘔吐・下痢時の看護		
3	急性期にある子どもと家族への看護　（救急救命処置が必要な子どもと家族への看護） （6）事故（呼吸停止、心停止、誤飲、溺水、外傷、出血）		
4	急性期にある子どもと家族への看護　（救急救命処置が必要な子どもと家族への看護） （7）生命徴候が危険な状況の看護(意識障害)　（8）疼痛時の看護 （9）発疹時の看護		
5	子どもにおける疾病の経過と症状への看護 1）慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 （1）慢性疾患を持つ子供と家族への援助 （2）先天性疾患のある子どもと家族への看護		
6	子どもにおける疾病の経過と症状への看護 1）慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 （3）心身障害のある子どもと家族への看護 （4）医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護		
7	子どものアセスメント　1）バイタルサイン　2）身体的アセスメント		
8	終末期の子どもと家族の看護		
9	検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ①　採血・採尿　②腰椎穿刺　③骨髄穿刺　④酸素療法（吸引・吸入）		演習
10	検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ⑤注射・輸液療法　⑥経管栄養		
11	周手術期の子どもと家族の看護		講義
12	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1）病気・障害が子どもと家族に与える影響 2）外来における子どもと家族の看護（救急外来における子どもと家族の看護）		
13	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3）在宅療養中の子どもと家族の看護　4）災害時の子どもと家族の看護		
14	子どもの虐待と家族への看護 1）子どもの虐待とは　2）リスク要因と発生予防・早期発見 3）子どもの虐待に特徴的に見られる状況　4）被虐待児および家族への看護		
15	終講試験 まとめ		

評価方法	終講試験 90%　レポート 10%（毎授業でプリント提出）
テキスト	・ナーシング・グラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護　編者：中野綾美　メディカ出版
参考図書	写真でわかる小児看護技術・アドバンス　編著：佐々木祥子　インターメディカ 必要時講義時間にお伝えします。
履修上の注意点	子どもの成長発達と健康障害を持つ子どもとその家族について学び、援助方法を考えましょう。日ごろから子どもの健康に関心を持ち、情報収集しましょう。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	小児看護学	小児看護学援助論Ⅱ 小児の主な疾患と看護	1	30	2学年後期	池田　恵津子 斎藤　多賀子 坂本　由里子

授業目標	１．小児期に多い疾患や小児特有の疾患の病態生理を理解する。 ２．小児の疾患や症状に対する診断・治療について理解する。 ３．小児に必要な看護を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護： ①先天異常（染色体性、遺伝性、外的因子など）　②出生前診断	池田	講義
2	新生児の看護： ①新生児の看護　②主な新生児疾患（呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、新生児仮死、脳室周囲白質軟化症、低酸素性虚血性脳症、新生児一過性多呼吸、無呼吸、先天性心疾患（概要のみ）、新生児黄疸）	池田	
3	代謝性疾患と看護： ①新生児マス・スクリーニングと先天性代謝異常　②代謝性疾患（１型糖尿病） 内分泌疾患と看護： ①内分泌器官　②内分泌疾患（低身長、思春期早発症など）　③肥満	斎藤	
4	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護： ①免疫　②アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支喘息など） ③リウマチ性疾患	斎藤	
5	感染症と看護： ①小児の予防接種　②感染症各論（ロタ・ノロウイルス、結核、麻しん、風しん、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ等）	斎藤	
6	呼吸器疾患と看護：①小児の呼吸器感染症の特徴　②かぜ症候群から肺炎まで ③呼吸器疾患の病原体	斎藤	
7	循環器疾患と看護：①先天性心疾患　②川崎病　③後天性心疾患　④突然死など	池田	
8	消化器疾患と看護：①横隔膜ヘルニア　②鎖肛　③食道閉鎖　④急性虫垂炎 ⑤腸重積　⑥肥厚性幽門狭窄症　⑦胆道閉鎖症　⑧感染性胃腸炎・細菌性腸炎	坂本	
9	血液・造血器疾患と看護：①貧血　②特発性血小板減少性紫斑病　③血友病 悪性新生物と看護：①白血病　②脳腫瘍　③神経芽腫　など	坂本	
１０	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護： ①腎疾患　②泌尿器疾患　③生殖器・外性器の疾患　④その他（夜尿症、尿崩症）	斎藤	
１１	神経疾患と看護：①てんかん　②熱性けいれん　③脳性麻痺 ④インフルエンザ脳症　⑤髄膜炎　⑥水頭症　⑦二分脊椎	池田	
１２	運動器疾患と看護： ①ペルテス病　②先天性内反足　③先天性股関節脱臼症　④小児の骨折 精神疾患と看護：①自閉症　②注意欠陥多動性障害　③学習障害　④精神遅滞	池田	
１３	皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患と看護： ①皮膚疾患（母斑、湿疹など）　②眼疾患　③耳鼻咽喉科疾患（中耳炎など） 事故・外傷と看護：①小児の救命処置　②小児の事故　③熱中症	斎藤	
１４	国家試験問題演習		
１５	終講試験		

評価方法	終講試験 100％で評価を行う。
テキスト	1）ナーシング・グラフィカ 小児看護学(3) 小児の疾患と看護 第２版　著：中村友彦　メディカ出版 2）系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②　著：奈良間美保他　医学書院
参考図書	
履修上の注意点	毎回の授業の最後にレポートを書いて提出すること。授業の終了時のレポートの提出により、授業への出席とみなす。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	小児看護学	小児看護学援助論Ⅲ 疾患・障害を持つ小児と家族の援助技術（看護過程）	1	15	２学年後期	半田　直子

授業目標	1.子どもが検査・処置を安全安楽に受けるための援助技術を養う。 2.事例をもとに健康障害を持つ子どもの看護過程を展開する基礎能力を養う。

	授　業　計　画	担当	備考
1	1.　小児の成長・発達をとらえた看護過程の考え方 2.　看護過程の展開(個人ワーク) ①事例をもとに情報の整理	半田	
2	2.看護過程の展開(個人ワーク) ②子どもの発達を捉えた情報の分析		
3	2.看護過程の展開(個人ワーク) ③関連図、問題リストの作成		
4	2.看護過程の展開(個人ワーク) ③看護計画を立案		
5	3.検査や処置を受ける子どもと家族への看護（GW） プレパレーション、ディストラクション ①　プレパレーションとは ②プレパレーションの実際		
6	3.検査や処置を受ける子どもと家族への看護（GW） ②プレパレーションの実際		
7	③プレパレーションの発表		
8	4.手作り玩具の作成(実習時に使用できるネーム作成) 安全につけられるよう作成		

評価方法	レポート 100％
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論　著：奈良間美保［ほか］　医学書院 ・ナーシング・グラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護　編：中野　綾美　メディカ出版
参考図書	・インターメディカ　写真でわかる小児看護技術アドバンス　監修：山元　恵子 ・ナーシング・グラフィカ　小児看護学②小児看護技術　編：中野　綾美　メディカ出版 ・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学②　著者：奈良間　美保他　医学書院
履修上の注意点	・レポート提出は期日を厳守してください。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30	２学年前期	神津　トミ子

授業目標	１．女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護の基礎的な知識がわかる。 ２．次世代の健全育成を目指す看護について理解する。

授業計画		担当	備考
1 2 3	母性看護の基盤となる概念： ①母性とは　②母子関係と家族発達　③セクシュアリティ ④リプロダクティブ・ヘルス／ライツ　⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護のあり方　⑦母性看護における倫理	神津	講義
4 5	母性看護の対象理解： ①女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ②女性ライフサイクルと家族　③母性の発達・成熟・継承		
6 7	リプロダクテイブヘルスケア： ①家族計画　②性感染症とその予防　③HIV に感染した女性に対する看護 ④人工妊娠中絶と看護　⑤喫煙女性の健康と看護　⑥性暴力を受けた女性に対する看護　⑦児童虐待と看護　⑧国際化社会と看護		
8 9	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状： ①母性看護の歴史的変遷と現状 ②母性看護の対象を取り巻く環境		講義
10 11 12	女性のライフステージ各期における看護： ①思春期・成熟期の健康と看護		
13 14	女性のライフステージ各期における看護： ②更年期・老年期の健康と看護		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 100％
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①　母性看護学概論　著：森恵美［ほか］医学書院
参考図書	
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅰ 妊産褥婦・新生児の 生理機能	１単位	30	２学年前期	行正　美奈

授業目標	１．妊娠・分娩の正常経過を理解し、それぞれの身体的特性と心理・社会的特性について学ぶ。 ２．妊婦および胎児のアセスメント、妊婦の保健相談、家族を含めた看護について学ぶ。 ３．分娩期の産婦の看護について、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。

	授　業　計　画	担当	備考
１	科目ガイダンス 母性の発揮を促す看護：①子どもを産み育てるということ②遺伝相談 ③不妊治療と看護	行正	講義
２	妊娠の定義：①妊娠期間の数え方　②妊娠とは　③妊娠の生理		
３	妊娠期の身体的特徴：①母体の生理的変化		
４	妊娠のアセスメント：①妊娠とその診断　②妊娠期に行う検査とその目的		
５	胎児のアセスメント：①胎児の発育と健康状態の診断		
６ ７	妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント 生理的変化に伴う不快症状・日常生活のアセスメント		
８	妊婦と家族の看護：①妊婦が受ける母子保健サービス　②妊婦の保健相談の実際 ③親になるための準備教室		
９	分娩の要素：①分娩とは　②分娩の３要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係　④分娩の機序		
１０	分娩の経過：①分娩の進行と産婦の身体的変化　②産痛 ③胎児に及ぼす影響　④産婦の心理・社会的変化		
１１	産婦・胎児、家族のアセスメント：①産婦と胎児の健康状態のアセスメント ②産婦と家族の心理・社会面のアセスメント		
１２	産婦と家族の看護： ①看護目標の産婦のニード ②安全・安楽・出産体験が肯定的になる・ 基本的ニード・家族発達を促す看護		
１３ １４	妊娠期・分娩期の看護実践		演習
１５	終講試験・まとめ		

評価方法	終講試験 90%　グループワーク・演習 10%　課題への取り組む姿勢を考慮する
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　著：森恵美［ほか］　医学書院
参考図書	・ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護技術　著：横尾京子［ほか］　メディカ出版
履修上の注意点	母性看護学援助論Ⅱ・Ⅲ、実習の履修へとつながる基盤となる科目です。 復習をしっかりと行い、自ら積極的に学ぶことを望みます。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅱ 妊産褥婦の看護と周産期にあるハイリスクの看護	1	30	２学年前期	内門　弘子

授業目標	１．産褥期の褥婦および家族について、身体的変化の理解、健康状態のアセスメント、心理的・社会的変化の理解を通して学ぶ。 ２．新生児の体外生活適応過程と看護援助を理解する。 ３．周産期（妊娠・分娩・産褥期）における異常とその看護援助を理解する。

授業計画		担当	備考
1	産褥期における看護：①産褥期の定義　②退行性変化 ③進行性変化　④産褥期の心理・社会的変化	内門	講義
2 3	産褥のアセスメント、褥婦と家族の看護、施設退院後の看護		
4	新生児の生理：①新生児とは　②新生児の機能		
5	新生児のアセスメント：①新生児の診断　②新生児の健康状態のアセスメント		
6 7	新生児における看護：①出生直後の看護　②出生後から退院までの看護 ③生後１ヶ月健診に向けた退院時の看護		
8 9	新生児の看護にかかわる技術、育児技術に関わる看護		演習
１０ １１	妊娠の異常と看護：①ハイリスク妊娠　②妊娠期の感染症　③妊娠疾患 ④多胎妊娠　⑤妊娠持続期間の異常　⑥異所性妊娠		講義
１２	分娩の異常と看護： ①産道の異常　②娩出力の異常　③胎児の異常による分娩障害 ④胎児付属物の異常　⑤胎児機能不全　⑥分娩時の損傷 ⑦分娩第３期および分娩直後の異常　⑧分娩時異常出血 ⑨産科処置・産科手術		
１３	新生児の異常と看護：①低出生体重児の看護　②高ビリルビン血症児の看護		
１４	産褥の異常と看護：①異常のある褥婦の看護		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験 90%　グループワーク・演習 10%	
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論　著：森恵美［ほか］医学書院	
参考図書	・ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護技術　著：横尾京子［ほか］メディカ出版	
履修上の注意点	女性のライフサイクルの大きなイベントである出産における周産期の看護を、ウェルネスの視点で展開するために幅広い学習を必要としています。	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学援助論Ⅲ 妊産褥婦・新生児の援助技術（看護過程）	1	15	2学年後期	内門弘子 戸梶里奈

授業目標	褥婦・新生児の看護、周産期にある対象の事例を通して、対象を統合された存在として理解し、健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた援助ができる基礎的能力を養う。

授業計画		担当	備考
1	1．ウエルネス看護診断とは 2．正常褥婦の看護過程の展開 ・アセスメントから結論まで	戸梶	講義
2 3 4	1．正常褥婦の看護過程の展開 ・看護診断リスト ・統合 ・看護介入 2．正常新生児の看護過程		講義
5 6	1．新生児の看護の実際 ・看護介入	内門	演習
7 8	1．帝王切開を受けた褥婦の看護過程の展開 ・アセスメントから結論まで ・看護診断リスト ・統合 ・看護介入	戸梶	講義

評価方法	レポート　100%
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ母性看護学②　母性看護学各論　著：森恵美[ほか]医学書院 ・ナーシング・グラフィカ母性看護学②　母性看護技術　　メディカ
参考図書	
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	1	30	2学年前期	平松　悦子

授業目標	１．精神疾患の治療の基本を理解する。 ２．主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1 2	１．社会の中の精神障害 １）精神障害と治療の歴史　２）日本における精神医学・精神医療の流れ ３）精神障害と文化　４）精神障害と社会学　５）精神障害と法制度	平松	講義
3 4	２．精神の健康と障害　１）精神の健康とは　２）精神障害のとらえ方 ３．人間の心のはたらき １）人間の心の諸活動 （人格と気質・知能・意識と認知機能・感情・学習と行動・心の理論） ２）心の仕組みと人格の発達（精神分析） ３）心の危機とストレス（危機理論とストレス理論・コーピング・トラウマ）		
5 6	４．精神症状と状態 １）特異的症状と非特異的症状 ２）様々な精神症状 （思考の障害・感情の障害・意欲の障害・知覚の障害・意識の障害・記憶の障害・局在症状）		
7 8	５．精神障害の診断と分類 １）診断と疾病分類　２）統合失調症の病型と症状及び治療法		
9	３）気分(感情)障害（うつの３大症状と主要症状及び治療法） ４）神経症性障害（恐怖症性不安障害・強迫性障害・重度ストレス反応および適応障害）		
１０	５）解離性障害　６）身体表現性障害(身体化障害・心気障害・その他) ７）その他の神経症性障害(神経衰弱・離人・現実感喪失症候群・虚偽性障害)		
１１	６．生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 （摂食障害・睡眠障害・性機能不全・性同一性障害）		
１２	（パーソナリティ障害・器質性精神障害・てんかん・知的障害/精神遅滞・心理的発達の障害）（小児期および青年期に通常発生する行動および情緒の障害・		
１３	７．精神科での治療　１）薬物療法		
１４	２）電気痙攣療法　３）精神療法　４）集団精神療法　５）環境社会療法		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験　１００％
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　著:武井麻子他　医学書院
参考図書	
履修上の注意点	プロジェクターの準備をお願いします。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実際とその倫理	1	30	2学年前期	平松　悦子

授業目標	１．精神看護の基本を理解する。 ２．こころの健康障害をもつ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。 ３．精神看護における対象の回復を支援する看護を理解する。

授業計画		担当	備考
1 2	精神科における看護の役割 1. 入院時のケア 2. 安全な治療環境の援助 3. 身体面のケアと精神面のケアのつながり	平松	講義
3 4	精神科における看護の役割 1. セルフケア理論 2. オレムアンダーウッド理論 3. 具体的な事例を理論に当てはめてその人らしさを支える援助を考える		
5 6	精神科で出会う人々とその看護（1） 統合失調症、気分障害、発達障害、依存症の看護		
7 8	精神科で出会う人々とその看護（2） 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、摂食障害の看護		
9 １０	精神科で出会う人々とその看護（3） 性同一性障害、パーソナリティ障害の看護		
１１ １２	精神科における治療と看護 （電気痙攣療法、薬物療法、認知行動療法、集団精神療法、家族療法） 生活を支えるための社会資源・サービス		
１３ １４	地域における精神保健と地域で暮らす精神障害者を支える 自助グループの意義と広がり		
１５	終講試験		

評価方法	レポート 30%　終講試験 70%
テキスト	◇系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院
参考図書	萱間真美編集：パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護第 2 版，照林社，2015.
履修上の注意点	講義資料は授業ごとに配布　PP 使用　　授業の前にプロジェクターの準備をお願いします。 ビデオ視聴。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
専門分野Ⅱ	精神看護学	精神看護学援助論Ⅲ 精神障害のある患者の援助技術（看護過程他）	1	15	2学年後期	平田　優樹

授業目標	1.精神看護におけるコミュニケーション技術を理解する。 2.プロセスレコードの再構成、考察する必要性を理解する。 3.事例を用いてアセスメント・看護介入を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1	精神科ケアの方法　コミュニケーション技法 ロールプレイングによる看護場面の考察	平田	講義
2	プロセスレコードの再構成と考察 患者の反応・言動の分析		講義
3 4 5 6 7	統合失調症の患者：看護過程の展開 ①患者シート ②Sデータ・0データ ③アセスメント ④関連図 ⑤看護問題・看護目標 ⑥看護計画 ⑦実施・評価		演習
8	看護過程の展開　レポートまとめ		

評価方法	レポート100％
テキスト	・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開　著：武井麻子〔ほか〕医学書院
参考図書	・精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　第6版　著：川野雅資編集　ヌーヴェルヒロカワ ・精神看護学　第2版　学生－患者のストーリーで綴る実習展開　著：田中美恵子編集　医歯薬出版株式会社
履修上の注意点	講義資料は授業ごとに配布 PC・プロジェクターの準備

統合分野

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30	2 学年前期	多田由美子 井上　順子

授業目標	1.　日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 2.　在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。 3.　在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。 4.　在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。 5.　在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。

授　業　計　画		担当	備考
1	在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護とは　②在宅看護の提供の場 ③在宅看護における看護師の役割 ④地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護	多田	
2	在宅看護の歴史と現状 ①　日本の在宅看護の変遷　②在宅看護の社会的背景 ③諸外国における在宅看護		
3 4 5	対象の特徴 ①年齢・発達段階　②疾患　③障害 ④在宅療養状態別　⑤ターミナルケア		
6 7	在宅看護の対象者としての家族 ①システム理論を用いた家族の捉え方 ②家族のアセスメント		
8 9	在宅看護の提供方法 ①外来看護　②訪問看護　③施設での看護　④通所サービスでの看護 療養の場の移行 ①退院支援・退院調整　②入退院時における医療機関との連携 ②　入退所時における施設との連携	井上	
10 11	在宅看護介入時期別の特徴 ①在宅療養準備期　②在宅療養移行期　③在宅療養安定期 ④急性増悪期　⑤終末期　⑥在宅療養終了期		
12	在宅看護における看護師の倫理 ①初回訪問　②訪問看護師のコミュニケーションとマナー		
13 14	演習：ロールプレイ 事例「訪問看護師による初回訪問」		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験　90%　演習　10%
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　著：河原加代子　他　医学書院
参考図書	・ナーシング･グラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア （第 6 版）、臺有桂・石田千絵・山下留理子 編、株式会社メディカ出版
履修上の注意点	

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養者に関連する制度と展開	1	15	2学年前期	井上　順子

授業目標	1．在宅療養者を支える法律と制度を理解する。 2．在宅ケアシステムにおける看護の役割を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1 2 3	在宅ケアを支える制度 ①介護保険制度　②医療保険制度　③障害者総合支援法　④難病法 ⑤医療介護総合確保推進法　⑥医療法　⑦その他の主な公費負担医療	井上	講義
4 5	介護保険制度と訪問看護制度 ①訪問看護ステーションのしくみ ②訪問看護師の役割 ③医療保険制度と介護保険制度 ④居宅介護支援事業所のしくみ		
6 7	1．療養上のリスクマネジメント 2．在宅看護における権利保障		
8	終講試験		

評価方法	終講試験 100%
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　著：河原加代子　他　　医学書院
参考図書	・在宅看護論　編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂　メディカ出版 ・在宅看護論　自分らしい生活の継続をめざして　改訂第2版　編：石垣和子，上野まり　南江堂
履修上の注意点	・社会保障で習得した制度の復習をしっかりしておいて下さい。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論Ⅱ 在宅における 日常生活援助技術と援助	1	30	２学年後期	多田　由美子

授業目標	１．在宅療養患者の日常生活を総合的に情報収集し、個々に応じた援助を見極めるためのアセスメントを行い、求められる基本的看護技術・特殊な看護技術について修得する。

授業計画		担当	備考
１ ２ ３	在宅に求められる看護技術 ①食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ②排泄に関する在宅看護技術 ③移動・移乗に関する在宅看護技術 ④清潔に関する在宅看護技術	多田	講義
４ ５ ６ ７ ８ ９ １０ １１	在宅における医療管理を要する人の看護 ①褥瘡 ②尿道留置カテーテル ③ストーマ ④経管栄養、ＰＥＧ ⑤中心静脈栄養法 ⑥非侵襲的陽圧換気療法 ⑦在宅酸素療法 ⑧在宅人工呼吸療法 ⑨がん治療 ⑩疼痛緩和		
１２	認知症、精神疾患を患う療養患者のケア		
１３	難病（ＡＬＳ）、在宅酸素・人工呼吸器を使用している療養者のケア		
１４	癌、終末期の療養者のケア（胃瘻管理、人工肛門、摘便、中心静脈栄養）		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験　80%　　レポート　20%
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　著：河原加代子　他　　医学書院
参考図書	・地域療養を支えるケア　地域療養を支える技術　　ナーシンググラフィカ ・在宅看護論　編：櫻井尚子，渡部月子，臺有桂　メディカ出版
履修上の注意点	

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	在宅看護論	在宅看護援助論Ⅲ 在宅援助技術（看護過程）	1	15	2学年後期	井上　順子

授業目標	1．在宅療養者とその家族の紙上事例に対する看護過程を展開する。 2．在宅看護で必要とされる看護技術を理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
1	ケアマネジメントと社会資源 ①　社会資源の活用　②　多職種連携　③　社会資源関連図（全体像）の作成	井上	演習 ＤＶＤ
2 3 4 5 6 7	在宅における看護過程の展開 ＊事例にて在宅における看護過程の展開を学ぶ ①在宅看護過程の特徴 ②情報収集とアセスメント ③全体像 ④目標の設定 ⑤計画立案 ⑥実施と評価		
8	レポートまとめ　　提出		

評価方法	レポート 100%
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　著：河原加代子　他　医学書院 ・在宅看護過程＋総合的機能関連図　　著：河野あゆみ　　医学書院
参考図書	・関連図で理解する在宅看護過程　　編著：正野逸子・本田彰子　メヂカルフレンド社
履修上の注意点	事前学習：事例における疾患の病態・治療・看護のポイントを学習しておくこと ：制度の復習もしておくこと

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	医療安全	1	30	2学年後期	岡本　和恵

授業目標	1. 医療安全を学ぶ意義と事故防止の考え方や安全努力の責務が理解できる。 2. 医療事故と看護業務（診療の補助での事故・療養上の世話）での事故防止の対策が理解できる。 3. 医療チームや組織の一員としての安全な取り組みの知識・姿勢を定着させる。

	授　業　計　画	担当	備考
1 2	医療安全を学ぶ意義 ①医療安全管理とリスクマネジメントの歴史と動向 ②医療におけるリスクマネジメント ③ヒューマンエラーと行動モデル ④事故報告書の書き方と分析　（ヒヤリ・ハットを書いてみよう！）	岡本	ＧＷ
3	医療事故の考え方 ①医療事故と看護業務　②看護事故の構造　③看護事故防止の考え方		講義
4	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 ①患者間違い　　発生要因		講義
5 6 7 8	診療の補助業務に伴う事故防止（１） ①患者に対して「投与する業務」における事故防止 ②注射業務と事故防止　③注射業務に用いる機器の事故防止 ④輸血業務の事故防止　⑤内服与薬業務と事故防止 ⑥経管栄養業務と事故防止　⑦看護業務に必要な計算 診療の補助業務に伴う事故防止（２） ①チューブ管理と事故防止		ＧＷ
9	医療安全対策　　組織的医療安全管理 ①システム上の問題　　②組織的な安全対策 ③ヒヤリ・ハット報告　　④ハインリッヒの法則		ＧＷ
１０	危険予知訓練（ＫＹＴ） ①危険予知訓練とは　②ＫＹＴ4ラウンド方式の理解 ③グループワーク・発表（タッチ＆コール）		演習
１１ １２	療養生の世話の事故防止 ①療養生の世話の看護介入と非介入の事故防止 転倒転落・誤嚥・異食・入浴中の事故		ＧＷ
１３	看護師の労働衛生上の事故防止 ①職業感染　②抗がん剤暴露　③放射線被ばく ④ラテックスアレルギー　⑤院内暴力		講義
１４	医療安全とコミュニケーション ①診療の補助におけるコミュニケーション ②コミュニケーションの大切さ ≪チームステプス演習≫ リーダーシップ・状況モニター・コミュニケーション・相互支援		演習
１５	終講試験　　まとめ		

評価方法	終講試験 80%　グループワーク・演習　20% レポート・課題への取り組む姿勢を考慮する
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践②　医療安全
参考図書	・医療安全ワークブック　第２版　著：川村治子　医学書院 ・チームステプス　日本版　医療安全　medical view ・医療安全　看護の統合と実践②　メディカ出版　　ＲＣＡ実践マニュアル：石川雅彦
履修上の注意点	臨床現場に即した医療安全教育が展開できるように進行したい。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	1	30	3学年前期	川島　保子

授業目標	1．チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする基礎的能力を身に着ける事が出来る。

授　業　計　画		担当	担当
1	看護とマネジメント　1)　看護管理学とは　2) 看護におけるマネジメント	川島	講義
2 3 4	看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能　2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理　4) チーム医療　5) 看護業務の実践		
5 6 7	看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成　2)看護職のキャリア形成 3)看護専門職としての成長（社会化）4)タイムマネジメント 5)ストレスマネジメント		
8 9 10 11	看護サービスマネジメント 1)看護サービスのマネジメント　2)組織目的達成のマネジメント 3)看護サービス提供のしくみづくり　4)人材のマネジメント 5)施設・設備環境のマネジメント　6)物品のマネジメント 7)情報のマネジメント		
12	マネジメントに必要な知識と技術 1)マネジメントとは　2)組織とマネジメント 3)リーダーシップとマネジメント　4)組織の調整		
13 14	看護を取り巻く諸制度 1)看護の定義　2)看護職　3)医療制度　4)看護政策と制度		
15	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験　100%
テキスト	・系統看護学講座　看護の統合と実践　看護管理　医学書院
参考図書	・新体系　看護学全書　統合分野　看護の統合と実践　看護実践マネジメント/医療安全 編集：小澤かおり　第4版　メヂカルフレンド社, ・看護六法　新日本法規,
履修上の注意点	グループワークや確認テストなどを取り入れ実施

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	災害・国際看護学	1	30	3学年前期	栗森 寿恵 内門 弘子

授業目標	１．災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。 ２．災害を理解し、災害看護活動に必要な基礎的知識を学ぶ。 ３．国際社会において、グローバルな視点に基づき国際的な看護・保健上の問題を理解する。 ４．諸外国の看護を理解し、看護の国際協力における組織・仕組みについて理解する。

	授　業　計　画	担当	備考
１ ２ ３	Ⅰ．災害看護 １．災害の概要　１）災害看護の歴史 ２）災害医療の基礎知識 ・災害の定義、分類、原因　・ＣＳＣＡＴＴＴ　・DMAT ・災害と情報 ３）災害看護と法律	栗森	講義
４ ５ ６	２．災害看護　１）災害看護の定義 ２）災害サイクルに応じた看護 ①急性期・亜急性期　・避難所における看護師の役割 ・災害と感染制御 ②慢性期・復興期 ・仮設住宅における生活支援と看護の役割 ・被災者の生活に必要なリハビリテーション ③静穏期　・災害時の自助と共助 ・災害時への備え ３）被災者特性に応じた看護 ①子ども　②妊産婦　③高齢者　④障害者 ⑤精神障害者　⑥慢性疾患患者　⑦在日外国人 ４）こころのケア		
７	３．トリアージ　１）意義と原則　２）方法、トリアージタッグの取り扱い ３）搬送方法		
８ ９ １０ １１ １２ １３	Ⅱ．国際看護 １．国際看護学の定義 ２．グローバルヘルス　・世界の健康問題の現状 ３．国際協力のしくみと関連する法律・国連機関、政府機関、国際ＮＧＯなど ４．文化を考慮した看護　・ＥＰＡ、ＦＴＡ ５．国際救援活動の基本理念 ６．国際看護活動の実際 ７．発展途上国と看護 ８．国際救助と看護る	内門	講義
１４	国際看護まとめ		
１５	終講試験　まとめ		

評価方法	終講試験（栗森 50%・内門 50%）
テキスト	・系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学 著：浦田喜久子(他)
参考図書	・国際看護　言葉・文化を越えた看護の本質を体現する　学研　編：一戸真子
履修上の注意点	グループワークの資料は各自、グループで準備する。発表は、ＰＰＴや掲示物など工夫する。

実務経験のある教員による授業科目

領域	区分	授業科目名	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	看護研究	1	30	2学年後期	中瀬　雄大 専任教員

授業目標	1.実践した看護の中から課題を見出し、ケーススタディとしてまとめる。 2.この過程を通して、　文献の活用、倫理的配慮、科学的・論理的なものの見方や考え方を学び、自己の看護観を深め、研究の基礎能力を身につける。 3.基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者のケースをケースレポートに作成し、発表する。

授業計画		担当	備考
1	1.看護研究の意義と目的　2. 研究の種類及び方法	中瀬	講義
2	3. 看護研究のプロセス		
3	4. 文献検索について、クリティーク		演習
4	5. 研究計画書の作成・提出		演習
5	6.研究倫理について		講義
6	7. 研究の実際:ケースレポートとは		
7	1）事例研究の進め方・研究を伝える意義、ケースレポートの研究計画書		
8	2）事例研究の実際、結果の書き方		
9	3）分析・考察　　草稿を数回提出し、修正する。		
１０	4）ケーススタディ作成		演習
１１	5）ケーススタディ修正、発表原稿・スライド修正		演習
１２	6)ケースレポートの完成。抄録の作成・提出　7）発表準備　抄録印刷		演習
１３	発表		演習
１４	発表		演習
１５	まとめ		演習

評価方法	ケースレポート 70%、抄録 10%、提出物 10%、発表・役割 10%
テキスト	・系統看護学講座 ≪別巻≫　看護研究　医学書院　著：坂下玲子,宮芝智子,小野博史 ・看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　照林社
参考図書	・黒田裕子の看護研究 Step by Step 第５版　黒田裕子,医学書院 ・ケースレポート手引き、その他、授業中に適宜提示します。
履修上の注意点	看護研究は非常に多くの労力を払わなくてはならないことを実感すると思います。しかし研究という手法に従って確かな根拠を示すことで問題解決に近づき、あなたの看護観を培い、看護を確実に実践していく基礎能力を育む。受講過程で求められる提出物は期限内に確実に提出してください。内容によって評価します。 レポート作成することによって研究力の芽を育てて下さい。複数の教員で指導をします。

領域	区分	授業科目	単位	時間数	時期	科目担当者
統合分野	看護の統合と実践	統合看護演習	1	30	2 学年後期	畑島　由美子

授業目標	１．既習の知識・技術・態度を統合させ看護実践と臨床判に必要な基本的能力について演習を通し習得できる。 ２．医療チームの一員として看護師の基本的な態度が習得できる。

授　業　計　画		担当	備考
１	１．看護の統合と実践を学ぶにあたって ・「看護の統合と実践」の学習目標　　・卒業時の到達目標 ２．看護師に求められる看護実践能力と臨床判断能力	畑島	講義
２	１．演習概要説明　①OSCE（客観的臨床能力試験） ②看護チームとしての複数患者対応の実際 ２．OSCE 事例		
３	１．看護チーム：リーダーシップ・メンバーシップ ２．複数患者への対応の実際 ・複数患者への援助における緊急・突発要件の発生時の対応策等		
４ ５	１．OSCE 演習１回目 ・判断力・技術・マナー等、実践現場で必要とされる基本的な臨床技術の習得を評価する		演習
６ ７	１．複数患者への対応の実際：1 回目 ・複数患者への優先順位を踏まえた援助計画の立案 ・実習計画調整表の作成　　※グル―プワーク		
８	１．複数患者への対応の実際：2 回目 ・ロールプレイ練習　　・計画修正		
９ １０	１．複数患者への対応の実際：3 回目 ・ロールプレイ　　・リフレクション		
１１ １２	１．OSCE 演習 2 回目 ・判断力・技術・マナー等、実践現場で必要とされる基本的な臨床技術の習得を評価する		
１３	１.看護者の基本的責務　看護師に求められる看護実践能力と臨床判断能力		演習
１４ １５	１．OSCE 演習 3 回目 ・判断力・技術・マナー等、実践現場で必要とされる基本的な臨床技術の習得を評価する		

評価方法	OSCE 評価 70%　ロールプレイ評価　20%　　レポート 10%
テキスト	・系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院
参考図書	既習のものすべて
履修上の注意点	G ワーク、ロールプレイの参加、OSCE 評価とレポート評価をもって評価の対象とする。 事例に関しては、各自がアセスメントし看護計画を作成し参加すること。